

平成24年度 教員個人評価の集計・分析報告書

佐賀大学大学院工学系研究科

評価委員会

平成25年12月

目 次

平成 24 年度教員個人評価について.....	1
1. 教員個人評価の実施状況.....	3
1.1. 対象教員数, 個人評価実施者数, 実施率など.....	3
1.2. 教員個人評価の実施概要.....	3
1.2.1. 評価組織.....	3
工学系研究科 (理工学部) 評価委員会ならびに工学系研究科 (理工学部) 個人評価実施委員会.....	3
1.2.2. 実施経緯, 内容, 方法等.....	3
1.2.3. 添付資料.....	5
2. 工学系研究科, 理工学部教員ならびに職員 (教育研究支援職員及び事務系職員) が組織的に一丸となって行った教育研究活動等.....	6
3. 評価領域別の集計及び分析.....	7
3.1. 教育の領域.....	7
3.1.1. 講義担当等に関する事項.....	7
3.1.2. 教育改善に関する事項.....	10
3.1.3. 教育研修・FD に関する事項.....	15
3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項.....	17
3.1.5. 学生の受賞等.....	18
3.2. 研究の領域.....	20
3.2.1. 著書, 論文等の発表実績.....	20
3.2.2. 共同研究などに関する活動実績.....	22
3.2.3. 受賞等の実績.....	24
3.3. 国際・社会貢献の領域.....	26
3.3.1. 国際交流実績.....	26
3.3.2. 社会貢献実績.....	27
3.4. 組織運営の領域.....	30
4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価.....	32
4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度.....	32
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム.....	34
4.3. 評価委員からのコメント.....	42

平成 25 年度工学系研究科評価委員会委員

平成 24 年度教員個人評価について

大学院工学系研究科における教員の個人評価は、各教員から提出された個人目標申告書、活動実績報告書及び自己点検・評価書を基に、大学院工学系研究科評価委員会の下に置かれた大学院工学系研究科個人評価実施委員会において行うこととされ、本報告書は平成 24 年度分について評価を実施し、その結果を取りまとめたものです。

教員自己点検・評価は、教育、研究、国際交流・社会貢献、及び組織運営の 4 つの領域ごとの活動状況評価と総合評価を、それぞれ 5 段階の評価点を付与して行います。そして、個人評価実施委員会は、教員の資質向上と諸活動の活性化、並びに本学及び本研究科と学部 of 目標達成に向けた活動という観点からそれら評価点の妥当性を点検しました。

平成 24 年度の工学系研究科・理工学部 of 取り組みについて、教育、研究、社会貢献 of 特色を以下に整理します。学生が記入するラーニングポートフォリオに対するチューター教員の指導記録は個人面談 of 記録も含め着実に対応が浸透し、学生 of 修学状況 of 把握につとめています。学修意欲が高く優秀な学生 of 会である「STEPs」を通じた海外研修は「グローバル of 意味とリーダーとは」を考える機会を与えています。また、問題を抱える学生に対しては、佐賀大学保健管理センター of ソーシャルワーカーと連携したアウトリーチケアを行っています。また、教員が作成するティーチングポートフォリオ（簡易型も含む）についても研修会 of 開催により、年次計画に従って作成率が着実に向上し、教育 of 質保証に関するベースが整いつつあります。知能情報システム学科、機能物質化学科、機械システム工学科および電気電子工学科 of 4 学科は日本技術者教育認定機構（JABEE）認定（継続認定も含む）を受けています。このような教育 of 質保証を担保するための取り組みにおいて教員 of エフォートが増加して来ています。研究に関しては、教員個人 of 取り組みを重視し、科学研究費助成事業への応募、採択 of 向上に努めています。さらに、各種 of 研究助成への応募を進めると共に、研究科長経費に基づくグループ研究プロジェクト（大学院生を含む） of 推進を図っています。その成果は学術論文などを通じて発表され、教員のみならず、大学院生 of 受賞にも繋がり教育的効果もあげています。社会貢献については、佐賀県工業連合会と連携した「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」を軸とした人材育成活動（インターンシップ、企業見学、大学研究室見学、企業トップ経営者によるキャリア講演会、海外人材育成視察団 of 派遣など）を行っています。また、国や地方自治体 of 各種委員会における学識委員や専門委員として多数 of 教員が参加し、地域 of 発展に寄与しています。

以上に述べました取組みは、理工学部学士課程教育 of 質保証、イノベーションをもたらす大学院工学系研究科における研究 of 実践、地域と共にグローバルに歩む工学系研究科を象徴するものであります。このような諸活動は工学系研究科 of 教員と職員、そして学生 of 皆様が設定した目標に向かって邁進する力に支えられております。今後も、継続した活動が教員個々に求められています。本報告書が公表される時点では文部科学省から国立大学改革プラ

ンが示され、それに基づく佐賀大学の改革が加速することになります。本報告書を手にして
おられる理工学部後援会，佐賀大学同窓会，佐賀大学校友会，卒業生，修了生をはじめとし
た工学系研究科・理工学部のステークホルダの皆様のご意見等は改革と実行の原動力になり
ます。教員の不断の自己研鑽と社会的要請に対応できる組織と制度の改革を進めることが工
学系研究科・理工学部の発展に資するものと確信しています。皆様のご指導とご鞭撻のほど，
よろしくお願い致します。

工学系研究科長・理工学部長
石橋孝治

1. 教員個人評価の実施状況

1.1. 対象教員数, 個人評価実施者数, 実施率など

大学院工学系研究科（博士前期課程と博士後期課程）所属の教員（教授，准教授，講師，助教）に対して，別紙様式1～4に関して教員個人評価を実施し，下記表のとおり回答を得た（回答率 100%）．（平成 25.3.31 現在）

専攻	対象教員数	実施率(%)
数理学専攻	12	100
物理学専攻	14	100
知能情報システム学専攻	15	100
循環物質化学専攻	21	100
機械システム工学専攻	17	100
電気電子工学専攻	17	100
都市工学専攻	20	100
先端融合工学専攻	20	100
工学系研究科（合計）	136	100

1.2. 教員個人評価の実施概要

1.2.1. 評価組織

工学系研究科（理工学部）評価委員会ならびに工学系研究科（理工学部）個人評価実施委員会

1.2.2. 実施経緯, 内容, 方法等

- ① 平成 25 年 2 月 20 日
 - 情報政策委員長から，全教員に対し，評価基礎情報データシステム入力について依頼した。
- ② 平成 25 年 3 月 4 日
 - 研究科長は，全教員に対し平成 24 年度活動の自己点検・評価を依頼し，別紙様式 1. 3. 4 を 3 月 11 日から 4 月 12 日までの間に提出を依頼した。
同時に，平成 24 年度の各様式もメールにて送付し，別紙様式 1（平成 24 年度活動の「個人目標申告書」）の作成・提出も併せて依頼した。
- ③ 平成 25 年 4 月 10 日 評価委員会開催
 - 平成 24 年度教員個人評価のスケジュールを決定した。
 - 平成 24 年度教員個人評価集計と分析報告書（様式）について決定した。

- 工学系研究科個人評価用集計シート及び理工学部・工学系研究科個人業績集約方法の様式を決定した。
- ④ 平成 25 年 5 月 8 日
- 「個人評価用集計シート」「個人評価用集計ツール」「個人業績集約の方法」を各専攻長に配布した。
- ⑤ 平成 25 年 5 月 8 日
- 研究科長は、各教員から提出された平成 24 年度の各様式（1・3・4）を各専攻長に送付した。また、同時に「平成 24 年度教員個人評価（専攻）集計と分析報告書」の様式も送付し、同報告書の作成を依頼した。（USB メモリーを手渡した。）
- ⑥ 平成 25 年 5 月中旬から 6 月中旬
- 各専攻長は、別紙様式 1、サーバーにアップロードされた評価基礎情報データシステム及び別紙様式 3 に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行い、評価結果を、別紙様式 4（平成 24 年度の「個人評価結果」）に記載の上、7 月末までに別紙様式 1・3 を含め、研究科長宛に送付することになった。
また、同時に、各専攻長は、平成 24 年度の個人評価結果について、各専攻の集計と分析を行い、その結果を、「平成 24 年度教員個人評価（専攻）集計と分析報告書」に記載し、研究科長へ提出した。（専攻長は、USB メモリーと印刷物（ペーパー）を研究科長へ手渡した。）
- ⑦ 平成 25 年 8 月初旬
- 研究科長は、工学系研究科個人評価実施委員会に対し、個人評価結果の審査を付託した。
- ⑧ 平成 25 年 8 月中旬
- 同委員会は、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、その結果を研究科長へ報告した。
- ⑨ 平成 25 年 9 月中旬～下旬
- 研究科長は、別紙様式 1、サーバーにアップロードされた評価基礎情報データシステム及び別紙様式 3「自己点検・評価書」に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、別紙様式 4（平成 24 年度「個人評価結果」）の評価内容を確認し必要があれば、評価結果の補足等及び研究科長コメントを記載することとなった。
 - なお、研究科長は、審査にあたり、審査の公平性を確保するために、必要に応じ、他の職員から意見を求めることとなった。
また、研究科長は、必要に応じ、評価内容について、当該教員から意見を聴取することになった。
- ⑩ 平成 25 年 12 月 16 日

- 研究科長は、自己点検・評価書に評価結果を記入した別紙様式4（平成24年度「個人評価結果」）を、当該教員に封書で通知した。その際、専攻毎の平成24年度教員個人評価集計と分析報告書を添付した。
- ⑪ 平成25年12月16日
 - 各教員は、個人評価の結果に対して異議がある場合は、通知後2週間以内（12月27日まで）に異議申立書（様式任意）を研究科長に提出することとなった。
- ⑫ 平成25年11月中旬
 - 研究科版の平成24年教員個人評価集計・分析報告書（案）を取り纏めた。
- ⑬ 平成25年12月上旬
 - 研究科長は、研究科版の教員個人評価集計・分析報告書を作成し、工学系研究科評価委員会に対し、本研究科の教員個人評価結果の総合的な検討を付託する。
- ⑭ 平成25年12月下旬（12月18日の評価委員会を予定）
 - 評価委員会は、本研究科の教員個人評価結果の総合的な検討を行い、同報告書を承認し、その結果を研究科長に報告する。
- ⑮ 平成26年1月下旬
 - 研究科長は、「教員個人評価集計・分析報告書」を添えて工学系研究科教員の個人評価結果を学長に報告する。

1.2.3. 添付資料

佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成17年3月1日制定）

佐賀大学大学院工学系研究科における教員の個人評価に関する実施基準

「大学院工学系研究科における個人達成目標の指針」（教員用）

個人目標申告書（別紙様式1）

教員報告書（別紙様式2）：工学系研究科・理工学部教員活動実績年次報告書（推奨様式）に読み替え

自己点検・評価書（別紙様式3）

個人評価結果（別紙様式4）

2. 工学系研究科，理工学部教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組織的に一丸となつて行つた教育研究活動等

はじめに，工学系研究科教員ならびに職員が組織的に一丸となつて行つた教育研究活動等を以下に示す．

- 平成 24 年度工学系研究科国際パートナーシップ教育プログラム（平成 16 年度より）：相手国：中国，韓国，ベトナム，インドネシア
 - 数理学専攻，物理学専攻，循環物質化学専攻，機械システム工学専攻，電気電子工学専攻，都市工学専攻，先端融合工学専攻の教員が参画
- 大学院地球環境科学特別コース
 - 数理学専攻，物理学専攻，知能情報システム学専攻，循環物質化学専攻，機械システム工学専攻，電気電子工学専攻，都市工学専攻，先端融合工学専攻，システム創成科学専攻（後期課程）の教員が参画
- 大学院戦略的国際人材育成プログラム(SIPOP)：
 - 佐賀大学大学院に博士後期課程を有する研究科の教育プログラムである．学術交流協定に基づいて実施されている国際共同研究や国際共同教育を強化し，佐賀大学特有の実質的な国際活動を発展させるために，佐賀大学独自に奨学金制度（佐賀大学奨学金留学制度）を設け，アジア諸国から外国人留学生を博士後期課程に受入れるものである．工学系研究科博士後期課程の教員が参画
- 平成 24 年度佐賀大学短期留学プログラム（SPACE）（平成 13 年度より）：
 - 知能情報システム学科 受入 1 名
 - 機能物質化学科 受入 1 名
- 高等学校ジョイントセミナー，出張講義等
- 環境美化エコ活動
 - 平成 24 年度省エネルギー活動：夏季ピーク電力の抑制策：7 月，8 月期ならびに 12 月，1 月期の空調断続運転
 - 定期的なキャンパス環境美化デーにおける一斉清掃

3. 評価領域別の集計及び分析

3.1. 教育の領域

3.1.1. 講義担当等に関する事項

表 3.1 に教員の担当科目数（学部，修士），担当コマ数（半期当り換算），卒業研究指導学生数，修士特別研究指導学生数，博士研究指導学生数（主指導）を表している。

表 3.1 教員 1 人当たりの講義担当，指導学生数

専攻	職種	学部 (教養教育科目を含む)			大学院			
		担当 科目 数/ 教員	担当 コマ 数	卒研 学生 指導 数	担当 科目 数/ 教員	担当 コマ 数	修士 学生 指導 数	博士学 生指導 数
数理科学専攻	教授	3.7	3.7	2.7	1.1	1.1	2.1	0.7
	准教授 (含講師)	4	4	2	1	1	0.2	-
物理科学専攻	教授	5.79	7.07	1.86	2.14	2.01	1.29	0.57
	准教授	4.50	5.57	2.29	2.14	2.33	2.00	0.14
知能情報 システム学専攻	教授	5.00	4.29	3.86	2.00	2.00	2.29	1.43
	准教授	6.00	5.24	7.20	2.20	2.20	2.80	0.20
	助教	2.00	3.24	1.00	-	-	-	-
循環物質化学 専攻	教授	10.70	10.93	3.40	4.70	2.72	3.60	1.25
	准教授	9.29	9.83	3.43	5.00	4.33	3.14	0.29
	助教	8.00	8.26	2.00	-	-	-	-
機械システム 工学専攻	教授	4.29	5.21	4.14	2.50	2.35	5.29	1.14
	准教授 (含講師)	4.00	4.88	3.63	1.63	1.19	1.50	-
	助教	2.00	3.50	2.00	-	-	-	-
電気電子工学 専攻	教授	3.00	3.03	5.00	4.70	4.55	4.80	1.00
	准教授 (含講師)	4.44	5.51	3.11	-	-	3.00	-
	助教	3.67	4.83	0.67	-	-	1.33	-
都市工学専攻	教授	5.8	6.1	4.4	3.8	2.8	3	2.9
	准教授 (含講師)	4.4	5.3	3.9	2.5	2.6	3.4	0
	助教	4.3	6.6	-	-	-	-	-
先端融合工学 専攻	教授	4.3	4.0	4.8	5.0	4.9	4.3	2.8
	准教授	4.5	5.0	3.7	4.7	3.9	2.2	-
	助教	2.6	5.6	0.3	-	-	-	-

受講生数は教務システムに登録された履修者数
授業担当コマ数は，半期当りに換算する。（通年 1 コマの科目は 2 コマとする。） 1 科目を複数教員で担当する場合は，実働時間とする。

【数理科学専攻】

- 教授と准教授は概ね同数の授業科目を担当しているが、特に修士課程学生の主任指導数は教授の方が多い。

【物理科学専攻】

- 授業負担は、教授が平均で学部 7.07 コマ、大学院 2.01 コマになっている。一方、准教授は学部 5.57 コマ、修士 2.33 コマである。どちらかという、教授が専門性の高い授業を分担しており、准教授は基礎的な科目を担当している。教授は准教授より 1 コマ程度授業負担が多くなるように分担することになっているが、これは比較的若い教員にできるだけ研究時間を与える配慮からであり、学内運営に関わる教授の負担を考えるとこれは特筆すべき配慮と言える。
- 平均指導学生数は、教授が学部 1.86 名、修士 1.29 名、博士 0.57 名の指導をしているのに対し、准教授は、学部 4 年生 2.29 名、修士 2.0 名、博士 0.14 名である。博士後期は教授が平均して 0.57 名を指導している。卒研生（＝学部定員数 40 名）と修士（定員 15 名×2 学年＝30 名）は、年度による偏りはあるが、概ね均等に分担している。
- 学生が卒業研究に着手できるまで担任制を実施しており、各教員はそれぞれの学年あたり、3～4 名の学生を担当として受け持ち、面談による学習・生活指導をおこなっている。

【知能情報システム学専攻】

- 学部教育において准教授は教授よりも多くの科目、学生の教育を担当している。
- 教授の卒研生担当数が少ない理由のひとつとして、1 名の教授がサバティカルを取得したことが挙げられる。
- 准教授の中には博士後期課程の主旨導の有資格者として博士学生を指導しているものもある。また、多くの准教授が副指導教員となって実質指導を行っている。
- 助教は主に実験指導を担当している。そのため、担当科目数の割には担当コマ数が多い。

【循環物質化学専攻】

- 教授と准教授は、学士課程および大学院博士前期課程の教育を平等に担当するようにカリキュラムが組まれており、卒業研究の指導学生数もほぼ同じである。昨年度よりも担当科目数および担当コマ数が増加したのは、実態を正確に反映するように見直したためである。
- 教授は修士論文研究主旨導学生数 平均 3.60 名、博士論文研究主旨導学生数 平均 1.25 名である。准教授は修士論文研究主旨導学生数 平均 3.14 名、博士論文研究主旨導学生数 平均 0.29 名である。教授と准教授の修士論文研究主旨導学生数に差異はない。博士論文研究主旨導は教授が担当しているが、准教授の一部も、博士後期課程の主旨導の有資格者として博士学生を指導している。また、副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。

- 助教は主に実験及び演習の指導を担当するとともに、主要科目以外の科目を担当している。このために担当科目数および担当コマ数が多くなっている。卒業研究指導学生数は平均 2.00 名で、さらに、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習や生活相談など）を行っていることが報告されている。

【機械システム工学専攻】

- 担当科目数については、教授／准教授ともおおむね同等の科目数を担当しているが、昨年と比較すれば本年度は准教授の学部講義負担が多いことが改善されている。
- 助教は機械工学実験Ⅰ，機械工学実験Ⅱ，大学入門科目（創造工学入門）などで実験や演習の指導を担当している。

【電気電子工学専攻】

- 准教授は実験科目を複数の教員で担当しているので、教授よりも科目・コマ数が多い。
- 教授は、准教授よりも卒業研究の指導学生数が多い。また、博士主任指導は教授のみが行っている。
- 准教授が博士後期課程の副指導教員となって、実質指導を行っている場合がある。
- 教授、准教授の中には定年退職教授の後を引き受けたために修士指導学生が多い教員がいる。
- 助教は複数の教員と一緒に実験指導を担当している。また、卒業研究・修士研究の副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。

【都市工学専攻】

- 教授は准教授よりも多くの科目、学生の教育を担当している。また、准教授の中には副指導教員となって、実質指導を行っている教員がいる。助教は主に実験指導を担当している。
- 指導する学生数は卒業研究（講師以上）で平均 4.2 人，修士指導（講師以上）で平均 3.2 人，博士主任指導（教授）で平均 2.9 人である。担当する授業コマ数は、学部で年間平均 5.9 コマ，大学院（講師以上）で年間平均 2.7 コマである。また、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習に関わる生活相談など）も行っていることが報告されている。

【先端融合工学専攻】

- 教授は学部（平均：担当科目数 4.3 科目），卒研指導学生数 4.8 名，大学院（平均：担当科目数 5.0 科目），修士指導学生数 4.3 名，博士指導学生数 2.3 名である。
- 准教授は学部（平均：担当科目数 4.5 科目），卒研指導学生数 3.7 名，大学院（平均：担当科目数 4.7 科目），修士指導学生数 2.2 名，博士指導学生数 0 名である。
- 助教は主に学部の実験指導を担当している。更に、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っている。

3.1.2. 教育改善に関する事項

教育改善に関し、工学系研究科各専攻の教員は、次のような取り組み、実践を行っている。

【数理学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 受講生が理解しやすいよう、プレゼンテーションソフトを多用した。（准教授）
- 学生の反応を見ながら講義を進め、適宜レポートを課すことで、講義内容の理解の着実な定着を試みた。（准教授）
- 演習については、自宅学習を促進させるように指導した。（教授）
- 推薦入学者のために、入学前に「微積分特訓講座」を開講して補習授業を行い、積極的に教育支援を行った。（教授、准教授）
- 学生の予習・復習に資するために、講義プリントなどをオンラインシラバスからダウンロードできるようにした。（准教授）
- D1及びD2の院生に対して、九州支部例会での講演、更に春の学会講演など研鑽の場を与えた。（教授）

【物理科学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 力学においてeラーニング教材を活用し、講義内容の理解に役立てた。（准教授）
- 授業評価アンケートだけでなく学生から直接意見を聞くなどして、授業改善に取り組んだ。（准教授）
- 学部の授業の演習を自作の演習問題を用いて行い、学生が問題を解いている間に教室内を回り、学生に声をかけ質問を引き出したり、解法を援助したりして、演習への参加度を高める試みを行った。大学入門科目II]では、学生自ら問題を見つけられるように課題を課した。学生支援室・学習支援部門委員として、学習アドバイザー制度の実施に関わった。特に後期は量子力学Bと直結した方法を取り、退学間際の学生1名がこの制度を積極的に利用することにより無事卒業をすることができた。ラーニングポートフォリオによる面接を全員実施した。全学教育機構の併任教員、共通専門基礎部会長として、共通専門基礎科目の25年度カリキュラムの立ち上げを行った。（教授）
- 物理科学科新入生に対し、週2回のショートホームルームを新たに始めた。シンクロトン光施設への研修なども行った。（准教授）
- 応用物理学会九州支部学術講演会で、博士前期課程2年の学生が自ら準備した発表を行った。この経験をさらに活かした修士論文の発表では、学科の奨学金返還免除推薦枠に入るほどの評価を得た。（准教授）
- 4科目でパワーポイント教材を改良し、LiveCampusでPDFファイルを提供した。物理学実験は、新たに実験教材を制作した。（教授）
- 学生の研究を指導し、4人の学生が筆頭で国内学会で計7回研究発表した。後期課程

学生1名が標準年限で学位を取得し、単年度にPhysical Review Bに評価の高い論文2編を発表した。(教授)

- 担当する全ての必修科目で e-Learning による演習問題出題を継続した。また、e-Learning システムを利用して期末試験後の成績データの公表や問題についての注意点を公開した。担当する全ての選択科目で LMS を利用した。相対論では講義ノートと演習問題を公開、宇宙物理学と宇宙論入門(周辺)では講義ノートの公開と講義のまとめを公開し演習問題を掲載、教職科目総合演習では情報に関する基礎的講義の内容を公開した。新規に担当した主題科目「ミクロの世界」の講義ノートを完成しホームページでダウンロードできるようにした。(教授)

【知能情報システム学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 毎回の授業で、授業計画書を作成し、計画的に授業を進めた。(准教授)
- コミュニケーションカードを活用し、毎回授業の最後に、授業に関するアンケートや簡単な演習を行い、学生の状態の把握に努め、理解の不十分なところや学生の疑問に答えた。(准教授)
- スライドと板書の併用を行い、一部の内容で書きながら説明を行った。その分説明も時間をかけて丁寧になり、その結果、授業評価アンケートの項目 B-9(授業の進む速さ) C-1(分かりやすくする工夫)に改善が見られた。(准教授)
- 講義資料の web への掲載時期を早めた。(教授)
- 講義資料の電子化、科目ページへの掲載。質問票の回収および迅速なフィードバック(QA集の掲載)。(教授)
- 演習内容を整理した。(教授)
- Moodle を用いて講義 HP を運営し、各種のコンテンツ提供、レポートの回収、評価結果のフィードバック等を行った。また、Wiki を活用してチームでの資料作成および相互レビューを実施した。(准教授)
- 卒業研究のための Moodle コースを設定し、各種の成果物提出、教育コンテンツの提示などに活用した。また、Moodle 版ゼミ用大福帳を開発・運用して、学生相互間のディスカッションの可視化および蓄積・整理を推進した。(准教授)
- Moodle を用いて講義 HP を運営し、各種のコンテンツ提供、レポートの回収、評価結果のフィードバック等を行った。また、Moodle 版大福帳を活用して、毎回の授業で学生の意見・コメントを収集し、それに回答することでコミュニケーション促進を図った。(准教授)
- 理解不足を解消して理解をより深めるために、小テストを実施し、不正解には訂正、再提出を求めた。演習課題ページを充実した。(准教授)
- 質問票の回収および迅速なフィードバック。(教授)
- 講義冒頭に、時間をじゅうぶんにとってフィードバックを行った。(教授)
- レポート課題の検討会を実施し、学生にプレゼンテーションをさせた。(教授)

- 受講者に対して授業時間外の学習課題を合計3回課した。課題は講義HPから受け取ることとし、講義HPから採点結果をフィードバックした。（准教授）
- 学生に割り当てた英語文献に関する要約を行わせる際に、Wikiを用いて共同作業を行わせた。これにより、相互の連携が生まれ、成果物の質が向上した。（准教授）
- 毎回の小試験の採点結果で成績を評価している科目で、6回目、10回目の小試験までの採点結果を、成績評価の途中経過として、各受講生にメールで連絡し、学習意欲を促進させた。（教授）
- 講義HPを通じた講義コンテンツの提供、レポートの回収、採点結果およびコメントのフィードバック、大福帳を用いた学生の意見・コメントの収集および回答など、様々な工夫や努力を行った。（教授）
- 予習を強制するため、次回の授業内容に関連する課題を宿題として課した。（教授）
- レポート提出状況の悪い学生は保留とし、教官室に呼んで個別指導を行った。（准教授）

【循環物質化学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- プレゼンテーションソフトを用いた授業に加えて、課題レポートの解答を解説する時間を設けた結果、授業アンケートの理解度評価がアップした。（教授）
- プレゼンテーションソフトを併用した講義資料を作成し、授業評価アンケートの資料活用において高い評価を受けた。（准教授）
- プレゼンテーションにアニメーションを加えて、わかりやすくした。（教授）
- 分子モデリングソフトを使って理解力の向上を図った。（教授）
- プレゼンテーションを多用して、わかりやすくした。（教授）
- 課題や小テストを利用した理解度の向上や主体的学修の促進を目指した改善として、以下の事項が実践されていると記載がある。
- 課題レポートの解答法を解説する時間を設けた。（教授）
- 章末問題の課題レポート提出と解答の解説（教授）
- 授業毎の課題レポート提出と解答の解説（教授）
- 理解が不十分な学生にはレポートを課題として与え、それをもとに補講した。（教授）
- 授業の開始時と終了時に小テストを実施し、授業により理解度が上昇していることを確かめさせた。（教授）
- 講義内容に沿った演習を毎回実施し、学生が講義内容を能動的に理解するような機会を持たせた。（准教授）
- 簡単な問題を授業に取り入れ、スライドもわかりやすく作り直した。（准教授）
- その他、資料の活用などによる授業改善として、以下の事項が実践されていると記載がある。
- 重要なポイントを理解でき学習効率を上げることができるよう、講義の重要なポイントをまとめた資料を作成し、講義ごとに配布した。（教授）
- 予習・復習プリントを充実させ、予習、復習により学習時間を増加確保した。（教授）

- 授業評価結果に基づき講義内容を厳選し、高い合格率を達成した。（准教授）
- 大学院の授業では“なぜそのような現象が起こるのか”ということを考えさせるようなレポートを適宜課しながら授業を進めた。（准教授）
- 前年度の内容と方法の問題点等について見直しを図った上で、単にやるべきことを指示するのではなく、受講生が自発的に考え、取り組めるように誘導することを心掛けると共に、これを実践した。（准教授）
- レポート投稿用のWEBシステムを構築し、学生の自宅学習を支援した。（教授）

【機械システム工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 担当科目をJABEEの基準をベースとして授業をすすめ、その結果をFDレポートとしてまとめた。
- シラバスにより授業計画を公開し科目と学習教育目標との対応関係を示した。
- 学生に対し達成度評価をフィードバックすることで、学習意欲の向上に努めた。
- 昨年度の授業評価アンケート等で得られた改善内容を、本年度の講義にフィードバックするよう努めた。
- 学生による成果報告をサポートし、国際会議等での発表を指導した。
- オフィスアワーを設け、学生からの学習・進路等の相談に応じた。
- 卒業研究継続困難な学生の父兄と今後の指導の方法性について相談した。
- 博士後期課程の学生を受け入れ、博士学生定員を充足するように努力した。
- Web上に講義ノート、演習課題の模範解答を公開し、予習復習ができるようにした。
- TAの活用により授業時間中に理解不足の学生に対する個別のフォローに努めている。
- 中間試験を実施し、自主学習を促進させている。
- 演習レポートにできるだけ詳細な添削を実施している。
- 演習レポートを毎回提出させることで、学習の習熟度を上げて行った。
- パワーポイントを効果的に使用するなど、学生の理解を深めるよう講義を工夫した。
- 基礎的学問の内容が、社会（特に工学分野）で実際にどのように役立つかを意識づけるよう心掛けた。
- 配属学生を対象に勉強会を開いて専門教育の充実を図った。

【電気電子工学専攻】

教育改善委員会（月1回、3時間程度）、科目別グループ会議（月1回、30分程度）、カリキュラム検討委員会（月1回、2時間程度）、JABEE委員会（月1回、1.5時間程度）、学生実験委員会（月1回、1.5時間程度）にて定期的に教育改善などについて議論した。（教授、准教授、講師、助教）

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 学会での研究発表を行わせる。（教授，准教授）
- 講義用スライドを事前に LiveCampus にアップロードし，予習を促した。（教授）
- 学生に質問することによって，授業への参加を促進した。（教授）
- 小物を用いて見えない電磁波を視覚的に理解できるように工夫した。（教授）
- 再々試験の実施にあたっては，自ら作問させることで理解の向上を図った。（教授）
- 板書とプロジェクタを併用して講義を行うことで理解度の向上に努めた．また使用するスライドは毎回印刷し配布することで自主学習の促進を目指した．（准教授）
- 講義で使用するスライドを毎回印刷し配布することで，理解度の向上と自主学習の促進を目指した．（准教授）
- 学生へほぼ毎回，次週の自習課題を配布し，自宅学習を促した．（准教授）
- 毎回，自習課題を課し，自習に提出させた．（准教授）

【都市工学専攻】

教育改善に関する努力として，以下の事項が実践されていると記載がある．

- 授業評価アンケートの結果をもとに次年度に向けた改善点を明らかにした．（予習，シラバス）（教授）
- 環境問題に関する最新的话题を活用した．有益なインターネット情報を活用した．（教授）
- 授業評価アンケートの結果をもとに次年度に向けた改善点を明らかにした．（予習，シラバス，小テスト）（教授）
- TA の指導を強化する．予習・復習について指導方法を改善する．シラバスについて意味を周知する．（教授）
- 技術士1次試験の過去問を収集し，講義に活用する．（教授）
- バスによる現地見学会開催（教授）

【先端融合工学専攻】

教育改善に関する努力として，以下の事項が実践されていると記載がある．

- 現実におこっているケースを例に試験問題を作成した．（教授）
- LMS (Learning Management System)を利用した演習を実施した．（教授）
- 講義に利用するパワーポイントファイルの内容を改良した．（教授，准教授）
- 演習の解答例を作成し，配布するようにした．（教授）
- 研究室のゼミの記録を Wiki ベースに変更し，学生がいつでもどこでも実験結果や論文をアップロードできるようにした（教授）．
- 研究室のゼミを英語で行った．（教授）
- ”わかりやすい授業”を目指して，授業の進行スピードを落とすとともに，同じ内容を複数回にわたって講義するようにした．（教授）
- eラーニングシステムの利用し，自己学習を義務づけた．（教授）
- 担当科目について各回授業後学生による授業評価を実施し，授業改善に取り組んだ（准教授）

- ・ わかりやすく講義を行うためにパワーポイントファイルを作成し、それを利用しながら講義を進めた。（准教授）

3.1.3. 教育研修・FDに関する事項

教育研修・FDについて、工学系研究科各専攻の教員は次の活動を行っている。

【数理科学専攻】

専攻・学科内でのFD活動の他、以下への参加が報告されている。

- ・ 工学系研究科FD報告会（教授，准教授）

【物理科学専攻】

専攻内でのFD活動の他、

- ・ 多種，多様なFD関連後援会に多くの教員が参加している。
- ・ 一部の教員は、これらを主催している。

【知能情報システム学専攻】

教育改善について1回／年の実践報告等を教室会議後の教育点検会議において行なっている（講師以上の全教員）。それ以外に以下のような事項が報告されている。

- ・ 第5回佐賀大学スキルアップセミナーに参加した。（准教授）
- ・ 平成24年度理工学部・工学系研究科FD講演会「入学前学習の取り組みとLMS」に参加した。（教授，准教授）
- ・ フル版ティーチングポートフォリオを作成し、インターネットで公開した。（准教授）
- ・ 理工系情報学科・専攻協議会に参加した。（助教）
- ・ 平成24年度JABEE認定の審査報告会に参加した。（教授）
- ・ 高等教育開発センター主催の「ティーチング・ポートフォリオ活用・導入シンポジウム in 佐賀大学 2011」において中心的役割を果たした。（教授）

【循環物質化学専攻】

専攻内でのFD活動の他、

- ・ 工学系研究科FD報告会（教授，准教授）
- ・ 佐賀大学教養教育運営機構FD講演会（教授）
- ・ 佐賀大学全学教育機構FD講演会（教授）
- ・ JABEEシンポジウム（教授）
- ・ ティーチング・ポートフォリオミニワークショップ(准教授)
- ・ 佐賀大学スキルアップセミナー（准教授）
- ・ 佐賀県教員による高大接続に関する研修会（教授）
への参加が報告されていた。

【機械システム工学専攻】

専攻・学科内でのFD活動の他、

- 専攻・学科内に設置した教務グループによる JABEE 推進対応、学部および大学院の教務関連事項の検討
- 学部 FD 講演会への参加
などが報告されていた。

【電気電子工学専攻】

専攻内での FD 活動の他に、以下を実施した。

- ABEE 実地審査 教員面談（教授，准教授）
- JABEE 認定の審査報告会（教授，准教授）
- チューター制により年 2 回（毎学期はじめ）の個人面談にて履修と単位取得状況のチェックや修学上の相談を行っている。（全教員）
- 工学系研究科・理工学部 FD 講演会（教授，准教授，講師）
- 佐賀大学 FD・SD フォーラム（教授，准教授）
- 佐賀大学ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップ（教授，准教授）
- ハラスメント講演会（教授，准教授）
- 男女共同参画シンポジウム ―日本と韓国における取組みについて―（准教授）
- 認知症サポーター養成講座（准教授）
- LMS 講習会（准教授）
への参加が報告されていた。

【都市工学専攻】

専攻内での FD 活動の他、

- 工学系研究科 FD 報告会（教授，准教授）
- 情報処理教育の現状（教授）
- 佐賀大学スキルアップセミナー（准教授）
への参加が報告されていた。

【先端融合工学専攻】

学科・専攻内での FD 活動の他、

- 兼担学科の JABEE 承認への主体的参画（教授，准教授）
- 日本技術者教育認定制度(JABEE)審査講習会・受審校向け講習会への参加（教授）
- 学部平成 24 年度 JABEE 認定の審査報告会への参加（教授）
- 学部ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップへの参加（教授）
が報告されていた。

3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項

オフィスアワーの設置と学生の訪問については、工学系研究科内の全ての教員が行っている。専攻ごとの相談内容については、以下のとおりである。

【数理科学専攻】

- 相談内容は勉強や進路に関するものが多い。（教授，准教授）

【物理科学専攻】

- 学科では卒業研究着手までの担任制を実施しており、各教員は学年毎に3ないし4名の学生の担任の役割を果たしている。年度初めに学習・生活相談の面談を実施している。
- 特に修学上の遅れがみえる学生については、教室会議で取り上げ情報交換し、可能な限りの対策を行っている。
- 大学院生については、指導教員が担任の役割を果たしている。

【知能情報システム学専攻】

- 相談内容は学修に関するものが多い。修学不振の学生への対応には教務委員／副教務委員による細やかな履修相談も行なっている。
- ノート PC の購入に関する相談がある。
- 電子メールでの相談が半数以上を示す。メールで解決できない問題については面談での相談を行なっている。
- 進路に関する相談は、就職担当教員（教授）が一括して担当しているが、卒研指導教員との相談も貴重なアドバイスになっている。（全教員）

【循環物質化学専攻】

- オフィスアワーは全教員が設定しており、学生の訪問に対応している。
- オフィスアワー以外の時間においても、教員は学生の訪問・相談に適宜対応している。
- 学生からのメールによる相談についても対応している。
- 毎学期毎に全学生に対し、チューター面談を実施している。
- 1年生および2年生については、ラーニング・ポートフォリオを活用したチューター指導を実施している。
- 学生の訪問・相談は、専攻主任や教務委員、教育プログラム委員長、就職担当教員などに対するものが多い。
- 相談内容は、授業に関する質問の他、履修上の相談や就職に関する相談・報告、進路等の相談などである。

【機械システム工学専攻】

- 相談内容は学修相談と就職・進路相談が各々全体の半数ずつで、それ以外には生活相談を実施している。

【電気電子工学専攻】

- 延べ回数は一般学生に対してが約490回、留学生、社会人がそれぞれ3回程度であった。（全教員）
- 相談内容は学修相談が最も多く、進路相談、生活相談と続く。（全教員）
- 卒論生、大学院生については、指導教員が相談担任の役割を果たしている。
- 後援会后に主として学年担当と保護者を交えて面談を行い、学修指導を実施している。（教授、准教授、講師、助教）

- ・ チュータ制により少人数対応の指導を行っている。（全教員）
- ・ 就職指導に関しては就職担当教授も行っている。（教授）

【都市工学専攻】

- ・ 相談内容は学修相談や生活相談に関するものが多い。（教授，准教授）

【先端融合工学専攻】

- ・ 全教員が電子メールでの対応も含め，オフィスアワー時間以外にも対応している。
- ・ 内容は教務事項が多い。

3.1.5. 学生の受賞等

【知能情報システム学専攻】

- ・ 情報処理学会九州支部奨励賞（指導教員：教授）

【循環物質化学専攻】

- ・ 国際学会優秀発表賞(The 25th International Symposium on Chemical Engineering; Oral Presentation Award)（指導教員：教授）
- ・ 国際学会ポスター賞(The International Symposium on Preparative Chemistry of Advanced Materials; Poster Prize)（指導教員：教授）
- ・ 第 28 回分析化学緑陰セミナー 優秀ポスター賞（指導教員：教授）
- ・ 第 23 回九州地区若手ケミカルエンジニアリング討論会 ポスター賞（指導教員：准教授）
- ・ 2012 年度日本化学会西日本大会 ポスター賞 3 件（指導教員：教授）
- ・ 学生による知的財産権の出願 3 件（指導教員：教授，准教授）

【機械システム工学専攻】

- ・ 日本機械学会 畠山賞
- ・ 日本機械学会 三浦賞
- ・ 日本設計工学会 武藤栄次賞

【電気電子工学専攻】

- ・ 電子情報通信学会九州支部長表彰「学生会講演奨励賞」（指導教員：准教授）
- ・ 2012 アカデミックプラザ賞（指導教員：准教授）
- ・ 日本知能情報ファジィ学会ソフトサイエンス研究部会ベストプレゼンテーション賞（指導教員：准教授）

【都市工学専攻】

- ・ 平成 24 年度土木学会西部支部研究発表会優秀講演賞 学部生 3 名，院生 2 名
- ・ 平成 24 年度日本コンクリート工学会九州支部長賞 学部生 1 名，院生 1 名
- ・ 平成 24 年度都市住宅学会九州支部優秀学生賞 学部生 1 名
- ・ 平成 24 年度空気調和・衛生工学会九州支部長賞 院生 1 名
- ・ 空気調和・衛生工学会第 27 回振興賞学生賞 学部生 1 名
- ・ 平成 24 年度日本都市計画学会九州支部長賞 学部生 1 名

- 平成 24 年度日本建築学会九州支部長賞 学部生 1 名
- 平成 24 年度地盤工学会九州支部有料学生賞 院生 2 名
- 学内の賞 平成 24 年度修士論文審査会優秀発表賞 院生 5 名
卒業論文審査会優秀発表賞 学部生 13 名
卒業制作丹羽賞 学部生 1 名

3.2. 研究の領域

3.2.1. 著書，論文等の発表実績

過去5年間（H19.4.1～H24.3.31）の発著書，論文等の発表実績を表 3.2 に示す。

表 3.2 過去5年間（H19.4.1～H24.3.31）の発著書，論文等の発表実績の平均値

専攻	職種	著書	論文総数		和文原著		英文原著	
				査読付		査読付		査読付
数理学専攻	教授	0.3	7.1	6.7	0.4	0	6.7	6.7
	准教授 (含講師)	0	3.6	2.8	0.6	0.2	3	2.6
物理学専攻	教授	0.43	8.71	7.14	1.29	0.00	7.43	7.14
	准教授	0.00	11.43	11.29	0.00	0.00	11.43	11.29
知能情報 システム学専攻	教授	1.14	62.57	36.43	26.71	7.00	35.86	29.29
	准教授 (含講師)	0.20	34.40	14.40	18.00	4.40	11.20	10.00
	助教	0.00	1.67	1.67	0.67	0.67	1.00	1.00
循環物質化学 専攻	教授	0.80	13.50	12.90	0.70	0.10	12.80	12.80
	准教授	0.29	11.29	10.14	0.86	0.14	10.57	10.14
	助教	0.50	7.25	6.75	0.75	0.25	6.50	6.50
機械システム 工学専攻	教授	0.71	22.57	18.86	6.00	3.29	16.57	15.57
	准教授 (含講師)	0.50	18.63	15.50	9.25	9.25	9.38	6.25
	助教	0.00	22.00	7.00	15.50	3.00	6.50	4.00
電気電子工学 専攻	教授	2.00	29.40	29.40	3.00	3.00	26.40	26.40
	准教授 (含講師)	0.78	20.89	14.11	9.44	2.67	11.44	11.44
	助教	0.33	11.00	11.00	1.33	1.33	9.33	9.33
都市工学専攻	教授	1.1	27.2	19.6	10.6	5.9	15.6	14.3
	准教授 (含講師)	0	18.8	8.6	13	2.9	5.8	5.8
	助教	0.3	27.3	8	25.3	6	2	2
先端融合工学 専攻	教授	1.5	38.5	27.7	5.8	1.4	32.7	26.2
	准教授	1.1	16	11.5	1.4	1.2	12.4	10.2
	助教	0	7.3	7.3	3.0	3.0	2.3	2.3

【数理学専攻】本表より，全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は，かなり良好である。
- 准教授の研究活動は，概ね良好である。

【物理学専攻】本表より，全体的に以下の点が窺い知れる。

分野間や研究形態の違いにより、発表論文数にはばらつきがあるが、いずれの場合も

- 大半の教授の研究活動は概ね良好におこなわれている。
- 大半の准教授の研究活動は概ね良好におこなわれている。

【知能情報システム学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授、准教授の研究活動は順調であり、成果を上げている。
- 教授、准教授とも業績数が昨年度よりも増えている。
- 助教の研究活動は停滞している。助教の研究活動を講師以上の教員でサポートすることを検討していく。

【循環物質化学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は非常に良好であり、5年間に一人平均 12.90 編の査読付き論文を報告している。
- 准教授の研究活動は非常に良好であり、5年間に一人平均 10.14 編の査読付き論文を報告している。
- 助教の研究活動は良好であり、5年間に一人平均 6.75 編の査読付き論文を報告している。

いずれの教員とも、主として査読付き英文論文を報告しており、国際的水準にある研究活動を行っている判断される。ただし、昨年度に比べおよそ 1 編弱程度発表実績が低下しており、学士課程教育 2 コースの実施や大学および当該研究科の組織運営への多大な寄与が研究活動に影響を与えていると思われる。

【機械システム工学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授、准教授・講師、助教ともに概ね良好な研究活動が行われていると評価できる。

【電気電子工学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は、論文総数が年平均 5.88 編であり、大半が査読付きであり英語原著論文が多いことから窺い知れるように非常に優れている。
- 准教授の研究活動は、論文総数の年平均が 4.18 編であり、半数以上が査読付きであり、約半分が英文原著論文であることから窺い知れるように優れている。
- 助教の研究活動は、論文総数の年平均が 2.2 編であり、すべてが審査付であり、大半が英語原著論文であることから窺い知れるように優れている。

【都市工学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は、著書や査読付き論文で大きな成果を挙げている。ただし、論文数では個人差が大きく、指導する博士後期課程学生数が多い教員に査読付き論文数が集中し、逆に博士後期課程学生がほとんどいない教員では特に英文原著論文数が著しく小さくなっている。
- 准教授・講師の研究活動は、和文の論文数で教授を上回っている。ただし、論文数では個人差が大きく、必ずしも博士前期課程学生の指導数には比例していない。

- 助教の研究活動は、平均論文総数で教授と近いが、中身を見ると和文の査読無しが多く、また、個人差が激しい。

【先端融合工学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授は5年間で平均 38.5 件の査読付き論文を発表している。
- 准教授は5年間で平均 16 件の査読付き論文を発表している。
- 助教は5年間で平均 7.3 件の査読付き論文を発表している。

3.2.2. 共同研究などに関する活動実績

【数理学専攻】

- 中期計画推進経費（教授，准教授）

【物理学専攻】

- 産総研九州センター，理化学研究所，九州大学，弘前大学，NSRRC と共同研究を行った。

【知能情報システム学専攻】

- 情報通信研究機構との共同研究（准教授）
- 気象研究所との共同研究（教授，准教授）
- 産業技術総合研究所九州センターとの共同研究（准教授）
- 情報処理学会・資格検討 WG メンバーとの共同研究（准教授）
- 九州宇宙利用プロジェクト創出研究会（外部資金 30 万円）（教授）
- 国立環境研究所との共同研究（外部資金 95 万円）（教授，准教授）
- 宇宙航空開発研究機構との共同研究（外部資金 981,750 円）（教授）
- 産業技術総合研究所との共同研究（外部資金 1,813,637 円）（教授）
- 大学評価・学位授与機構との共同研究（教授）
- 佐賀県農業試験研究センター共同研究（教授）
- 九州工業大学情報工学部との共同研究（教授）
- 三重大学工学部との共同研究：外部資金（科研費：挑戦的萌芽）（准教授）
- 北陸先端科学技術大学院大学／千葉労災病院との共同研究（准教授）
- 株式会社情報科学テクノシステムとの共同研究（外部資金 381,539 円）（教授）
- 株式会社芹田建設との共同研究（外部資金 95 万円）（教授）
- 株式会社日立製作所との共同研究（外部資金 473,852 円）（教授）
- 佐賀大学異分野融合型地域防災研究プロジェクト（教授）
- 佐賀大学文教育学部，医学部，工学系研究科共同プロジェクト（教授）
- 佐賀大学文化教育学部との共同研究（准教授）
- 佐賀大学総合情報基盤センターとの共同研究（教授）
- 佐賀大学医学部との共同研究（准教授）

【循環物質化学専攻】

- 科学研究費補助金に 11 件が採択された（教授，准教授）

- 市・県，財団法人，民間企業，大学との共同研究を 13 件受け入れた（教授，准教授）
- 市・県，財団法人，民間企業からの受託研究を 8 件受け入れた（教授，准教授，助教）
- 環境省の外部資金を獲得（教授）
- 平成 24 年度学長経費「研究プロジェクト」に専攻より 1 件継続採択された（教授）
- 平成 24 年度学長経費「大学改革推進経費」に専攻より 3 件継続採択された（教授，准教授）
- 平成 24 年度工学系研究科長経費研究活性化事業「若手研究者支援経費」に専攻より 3 件新規採択された（准教授，助教）
- 研究成果展開事業（研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP））に採択された（准教授）
- 東京理科大学薬学部との共同研究（教授）
- 九州大学大学院理学研究府との共同研究（教授）
- 産総研九州センターとの共同研究（教授，准教授）
- カナダ・Wilfrid Laurie University との共同研究（教授）
- 九州大学，鈴鹿高専との共同研究（教授）
- 琉球大学および関西学院大学との共同研究（教授）
- 島根大学との共同研究（教授）
- 久留米大医学部との共同研究（准教授）
- インドネシア・ガジャマダ大学教員との共同研究（教授）
- 韓国・高神大学教員との共同研究（教授）
- イギリスの Glyndwr 大学と共同研究（准教授）
- 米国ペンシルベニア州立大学と共同研究（准教授）

【機械システム工学専攻】

- 乱れ促進体を用いたプレート式熱交換器の相変化を伴う伝熱促進と圧力損失低減
- 極少量の水を含むアンモニアの気液平衡特性と溝付管内蒸発熱伝達の実験
- 海洋深層水吐出口流の海洋表層への影響に関する基礎研究
- 増圧操作とくぼみ付き流路幾何パラメータの関係についての研究
- 螺旋板型アンモニア蒸発器に関する研究
- 多結晶マグネシウム合金の疲労破面とき裂進展経路
- 集合組織を有する多結晶マグネシウム合金の疲労き裂進展挙動の解明
- 特有な集合組織の多結晶マグネシウム合金のき裂先端特異応力場での破壊機構の解明
- 水素吸蔵合金容器における伝熱および水素吸蔵特性の解析
- 高効率ノンフロン型空調機器技術の開発
- 高剛性油の高圧物性測定評価研究
- 潤滑油の高圧物性に関する研究
- 液体の高圧物性に関する研究

- ・ ボトリオコックス抽出オイルの潤滑油性能に関する研究 など

【電気電子工学専攻】

- ・ 戦略的創造研究推進事業
- ・ 科研費基盤研究(B)
- ・ 科研費基盤研究(C) 6 件
- ・ 科研費萌芽研究
- ・ 科研費若手研究(B)
- ・ 放送文化基金
- ・ 産業技術総合研究所九州センターとの共同研究
- ・ 東北大学電気通信研究所共同プロジェクト研究
- ・ 佐賀大学海洋エネルギー研究センターとの共同研究
- ・ 民間企業との共同研究 (4 件)
- ・ 高橋産業経済研究財団助成金 (准教授)

【都市工学専攻】

- ・ 長崎大学工学部との科研基盤研究 (B)分担の共同研究 (教授)
- ・ 九州大学大学院との科研基盤研究 (A)分担の共同研究 (教授)
- ・ 科研基盤研究 (B)代表 (教授)
- ・ 科研基盤研究 (C) 代表 (教授)
- ・ 科研萌芽研究代表 (教授)
- ・ 文科省概算要求プロジェクト有明海研究：陸域からの負荷流出推定に関する研究 (教授)
- ・ 工学系研究科長経費, 研究活性化事業「若手研究者支援経費」(准教授)

【先端融合工学専攻】

- ・ 動的せん断ひずみの時空間解析によるエバネッセント場の検出と 微小亀裂の撮像に関する研究 (教授, 代表, 基盤(C))
- ・ パレート学習型自己組織化マップのマルチモーダル, 大規模データ解析への応用 (准教授, 代表, 基盤(C))

3.2.3. 受賞等の実績

【知能情報システム学専攻】

- ・ Electronical Engineering Polytechnics Institute of Surabaya から Keynote Speech Award を受賞 (教授)
- ・ GLOBAL HEALTH 2012 において BEST PAPER AWARD を受賞 (准教授)

【機械システム工学専攻】

- ・ 日本冷凍空調学会, 大韓設備工学会, 中国制冷学会からアジア学術賞 2012 (教授)

【電気電子工学専攻】

- ・ 2012 アカデミックブラザ賞 (准教授)

- 日本知能情報ファジィ学会ソフトサイエンス研究部会ベストプレゼンテーション賞
(准教授)

【都市工学専攻】

- PC 技術協会賞 (論文賞) 受賞 (教授)
- 2012 年都市住宅学会賞業績賞 (教授・講師)
- Best Presentation Award, ISHED 2012 (教授・修士学生・講師)

【先端融合工学専攻】

- 計測自動制御学会計測部門論文賞(教授)

3.3. 国際・社会貢献の領域

3.3.1. 国際交流実績

【数理学専攻】

- 佐賀大学における国際研究集会の主催（教授，准教授）

【物理学専攻】

- 韓国の大学との国際パートナーシップの実施（教授）
- 外国の研究者と研究交流を行った（教授，准教授）
- 国際ミュオン研究施設において研究を行った（教授）

【知能情報システム学専攻】

- 英語によるホームページを開設している（教授，准教授，助教）
- 国際会議査読委員（計9件，教授1名，准教授3名，助教1名）

【循環物質化学専攻】

- 工学系研究科国際パートナーシップ講師（教授）
- 中国遼寧大学主催の国際パートナーシッププログラムに参加し，招待講演を行った（教授，准教授）
- 韓国大邱大学とのジョイントセミナー参加（教授）
- European Molecular Liquids Group-Japanese Molecular Liquids Group (EMLG/JMLG) Annual Meeting 2012(Eger, Hungary) の Science Advisory Committee として会議の運営および座長．（教授）
- University of Lille 1 (France)に客員教授として3週間招聘（教授）
- 国際学会での招待講演や発表（教授，准教授）
- 佐賀大学在籍のアジア人留学生を対象とした自主講座を開催（教授）
- 外国人研究者を招聘し，講演会を開催（准教授）

【機械システム工学専攻】

- 国際パートナーシップ講師
- 国際学会の Committee
- 国際会議開会の運営委員，実行委員など
- 海外からの研究者の受け入れ
- 留学生の受け入れ
- 国際会議における発表等
- 外国語によるHPの開設

【電気電子工学専攻】

- 国際会議などへの参加・講演（教授，准教授，講師，助教）
- 学科，研究室の英語のホームページによる情報発信（教授，准教授，講師，助教）

【都市工学専攻】

- 工学系研究科国際パートナーシップ講師（教授）

- ・ 外国語ホームページの開設（教授）

【先端融合工学専攻】

- ・ 英語によるホームページ開設（教授，准教授）
- ・ 工学系研究科国際パートナーシップ講師（教授，准教授，複数名）

3.3.2. 社会貢献実績

【数理科学専攻】

- ・ 学会論文査読委員（教授，准教授）
- ・ 学会論文誌編集委員（教授）
- ・ 佐賀県数学教諭との交流会（教授）
- ・ ジョイントセミナー（教授，准教授）

【物理科学専攻】

- ・ ジョイントセミナーおよび現職教員等実習指導（教授，准教授）
- ・ 高エネルギー加速器研究機構放射線安全審議委員会委員（教授）
- ・ 九州大学大学院アドバイザーコミッティー委員（准教授）
- ・ 鳥栖市教育委員（教授）
- ・ サイエンスカフェや県などの主催の講演会で科学普及の話をした（教授）。
- ・ 国際線形加速器を脊振に誘致するための活動を積極的に行った（教授）。
- ・ 国際学術論文誌の審査員を務めた（教授，准教授）。

【知能情報システム学専攻】

- ・ ジョイントセミナーやスーパーサイエンス高校の講師（教授，准教授）
- ・ 学会論文等査読委員（計 3 件，教授，准教授，助教）
- ・ 学会主催後援会招待講演（4 件，准教授）
- ・ プログラム開発・公開（教授）
- ・ 佐賀県主催の協議会等の幹事，運営委員など（准教授）

【循環物質化学専攻】

- ・ 学会論文査読委員（教授，准教授，助教）
- ・ 学会論文誌編集委員（教授）
- ・ 学会支部幹事（教授，准教授）
- ・ 学会代議員（教授）
- ・ 学会分科会代表（教授）
- ・ 学振 155 委員会委員（教授）
- ・ 国際学会運営委員（教授）
- ・ 2012 年度日本化学会西日本大会主催（教授，准教授，助教）
- ・ 国内学会開催の実行委員，運営委員など（教授，准教授，助教）
- ・ 佐賀県，佐賀市，小城市，鹿島市，鳥栖市の環境審議会委員および委員長（教授）
- ・ 高大連携活動の新しい展開—学生が企画する大学生と高校生の交流企画（ワールドカフェ）—（教授）

- 佐賀県理科・化学教育研究発表会実行委員・講師（教授，准教授）
- 高校化学グランプリ佐賀地区予選実行責任者（教授）
- JABEE 外部評価委員（教授）
- 佐賀県高等学校教育研究会理科部会大会講師（教授）
- ジョイントセミナー講師（教授，准教授，助教）
- SSH 高大接続交流会講師（教授）
- 産学官連絡会議委員（教授）
- 佐賀市適応指導教室「くすの実」講師（教授，准教授）
- 佐賀大分合同新技術説明会講師（准教授）

【機械システム工学専攻】

- 学会理事
- 学会常務理事
- 学会評議員
- 学会校閲委員，編集委員，運営委員
- 学会九州支部理事，評議員，商議員，常議員など
- 研究会会長，幹事など
- 学会開催の実行委員，運営委員など
- ジョイントセミナー
- スーパーサイエンスハイスクールの講師
- 佐賀大学ものづくり技術者講座育成講座
- オープンラボ

【電気電子工学専攻】

- Japanese Journal of Applied Physics 誌編集委員（教授）
- アメリカ電気電子学会 IEEE Microwave and Wireless Components Letters 論文査読委員（講師）
- アメリカ電気電子学会 IEEE Transactions on Microwave Theory and Techniques 論文査読委員（講師）
- GSMM2013TPC co-Chair（教授）
- MWE2013 実行委員会財務委員長（教授）
- KoCon（韓国コンテンツ学会）開催地運営委員会副委員長（講師）
- エレクトロニクス実装学会 回路・実装設計技術委員会委員（准教授）
- 電子情報通信学会九州支部学生会顧問（准教授）
- 電子情報通信学会電磁環境工学研究専門委員会 委員（准教授）
- 電子情報通信学会 短距離無線研究専門委員会財務委員長（教授）
- 福岡システム LSI カレッジ システム LSI 設計技術者養成講座講師
- スプリング 8 課題審査委員（教授）
- 科研費審査委員（教授）

- 佐賀県立佐賀工業高等学校評議員（教授）
- 致遠館中学校・高等学校スーパーサイエンスハイスクール事業（教授）
- 福岡県立小郡高等学校ジョイントセミナー講師（准教授）
- 上五島高校ジョイントセミナー講師（教授）
- 長崎北高校ジョイントセミナー講師（准教授）
- 佐賀県立武雄高等学校ジョイントセミナー講師（講師）
- 佐賀県立三養基高等学校ジョイントセミナー講師（教授）
- 長崎県立長崎南高等学校ジョイントセミナー講師（教授）
- 致遠館高校 SSH 大学研修2（教授）
- ロボット・エレクトロニクスものづくり体験教室（准教授）
- 六角小学校による見学会（助教）

【都市工学専攻】

- 学会論文査読委員（教授，准教授）
- 学会論文誌編集委員（教授）
- 学会研究会幹事（教授）
- 審議会・委員会など（教授，准教授）
- ジョイントセミナー（教授，准教授）
- 学会開催の実行委員，運営委員など（教授，准教授）
- 公開講座「わくわく祭エンス科学競技会」講師担当（教授）
- 市民向け講演会（教授）
- 土木技術者向け講習会（教授）
- 九州地区国立大学合同入試説明会（教授）

【先端融合工学専攻】

- 学会理事を含む役員，運営委員，幹事，委員など（教授，准教授）
- 学会論文査読委員（教授）
- ものづくり講座講師（准教授）
- 国際学会座長（准教授）
- 佐賀県高等学校教育研究会講師（教授）
- ジョイントセミナー講師（准教授）
- スーパーサイエンスハイスクール事業講師（教授，准教授）
- 佐賀県の審議会の審議員（教授，准教授）
- 佐賀県主催の協議会等の幹事，運営委員など（教授）
- 共同研究・受託研究（教授，准教授）

3.4. 組織運営の領域

【数理学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（教授，准教授）
- 広報戦略会議委員，電子ジャーナル委員（教授）

【物理学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（全教員）

【知能情報システム学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（准教授，助教）

【循環物質化学専攻】

- 全学及び工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- アドミッションセンター長（教授）
- 教養教育運営機構副機構長（教授）
- 全学教育機構副機構長・高等教育開発室長（教授）
- 大学教育委員会副委員長（教授）
- 大学教育委員会企画・評価専門委員会委員長（教授）
- 知財戦略・技術移転部門長（教授）
- 工学系研究科副研究科長（教授）
- 工学系研究科評議委員（教授）
- 工学系研究科教務委員会委員長（教授）
- 工学系研究科連携大学院運営委員会委員長（教授）
- 工学系研究科安全委員会委員長（教授）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（教授，准教授，助教）
など，全学センター長，各種全学委員会委員長や工学系研究科委員会委員長として，組織運営に大きく貢献している。

【機械システム工学専攻】

- 工学系研究科・理工学部各種委員の担当（全教員）
- 各種全学委員会委員
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- 美化デーなどの活動に積極的に参加（全教員）
- 後援会協賛のOB懇談会開催

【電気電子工学専攻】

- 各種全学委員の担当（教授，准教授）
- 工学系研究科各種委員の担当（教授，准教授，講師）

- 学科・専攻関連各種委員の担当（全教員）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- キャンパスクリーンデーなどの活動に積極的に参加（全教員）
- シンクロトロン光応用研究センター長（教授）

【都市工学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（准教授，助教）

【先端融合工学専攻】

- 全学・工学系研究科などの各種委員の担当（全教員）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（准教授，助教）
- 副研究科長として研究科の運営の枢要に携わる（教授）

4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度

教員の総合的活動状況として、教員個人から自己点検された評価の各領域における評価点ならびに達成度の最小値と最大値をそれぞれの専攻の教授、准教授、講師、助教について整理したものが下記の表 4.1 である。

表 4.1 教員自身による自己点検評価（評価点ならびに達成率）

専攻	職種	教育の領域		研究の領域		国際貢献・社会貢献の領域		組織運営の領域		総合評価
		評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	
数理科学専攻	教授	3-5	70-95	3-5	70-100	3-5	60-100	3-5	70-95	3-4
	准教授 (含講師)	3-5	70-90	2-4	20-100	1-4	0-80	3-5	70-100	1-4
物理科学専攻	教授	3-4	50-90	1-4	20-90	3-5	70-100	2-4	30-90	2-3
	准教授	3-5	80-90	3-4	70-80	2-3	40-80	3-4	60-90	3-4
知能情報 システム学専攻	教授	4-5	90-100	4-5	75-100	4-5	70-100	5-5	100	4-5
	准教授 (含講師)	3-5	80-100	3-5	50-100	3-5	10-100	3-5	80-100	3-5
	助教	3-4	90-90	3-3	50-50	3-3	10-50	3-4	80-90	3-3
循環物質化学 専攻	教授	3-5	50-100	2-5	60-100	3-5	60-100	3-5	60-100	2-4
	准教授	3-5	70-95	3-5	70-100	3-5	70-100	3-5	80-95	3-5
	助教	3-5	60-100	2-5	40-100	2-5	30-90	3-5	60-90	3-4
機械システム 工学専攻	教授	3-5	70-100	3-5	65-100	4-5	80-100	3-5	70-100	3-5
	准教授 (含講師)	3-5	80-100	3-5	70-100	3-5	60-100	3-5	80-100	3-4
	助教	3-4	70-100	3-4	70-80	3-4	70-80	3-4	70-100	3-4
電気電子工学 専攻	教授	3-5	75-100	3-5	75-100	4-5	85-100	4-5	80-100	3-5
	准教授 (含講師)	3-5	60-100	2-5	40-100	2-5	25-90	2-5	40-100	3-5
	助教	3-5	70-90	4-5	80-100	4-4	80-90	3-4	75-80	4-4
都市工学専攻	教授	2-5	40-90	3-5	50-100	3-5	70-95	3-5	65-90	3-5
	准教授 (含講師)	3-5	70-90	2-5	60-90	3-5	50-90	3-5	50-90	2-5
	助教	4-5	75-100	4-5	70-100	2-4	40-90	3-5	50-100	3-5
先端融合工学 専攻	教授	3-4	80-95	2-5	40-100	3-5	50-100	2-5	40-95	3-5
	准教授	3-5	60-95	3-5	70-90	3-5	60-98	4-5	80-100	3-5
	助教	3-4	60-80	3-4	60-80	2-4	40-80	3-5	80-100	3-3

表中、例えば、(3-4)は評価点、達成率の（最小数 3—最大数 4）を表す。

一部の専攻において助教の人数が少ないため、助教のデータは割愛した。

【数理科学専攻】

この表から、各教員は適切な自己評価を行っていると思われる。

【物理科学専攻】

この表から、各教員は概ね適切な自己評価を行っていると思われる。

【知能情報システム学専攻】

この表から、各教員は概ね適切な自己評価を行っていると思われる。

【循環物質化学専攻】

この表から、教員は多くの場合控えめな自己評価を行っているため、今年度の評価実施委員による積極的な評価にもとづく総合評価は、昨年度よりも大きく改善している。なお、評価点や達成率にたいする研究科としての標準的な指標がないために、これらの評価点から有意義な結論を導くのは困難である。

【機械システム工学専攻】

この表から、ほとんどの教員においてはそれぞれの職分を考慮した適格な自己評価を行っていると思われるが、一部の教員については本学および本学部の目標達成に向けた活動という観点から判断して自己総合評価が若干低いように思われる。

【電気電子工学専攻】

この表から、各教員は概ね妥当な自己評価を行っていると思われる。

【都市工学専攻】

この表から、各教員は厳格な自己評価を行っていると思われる。

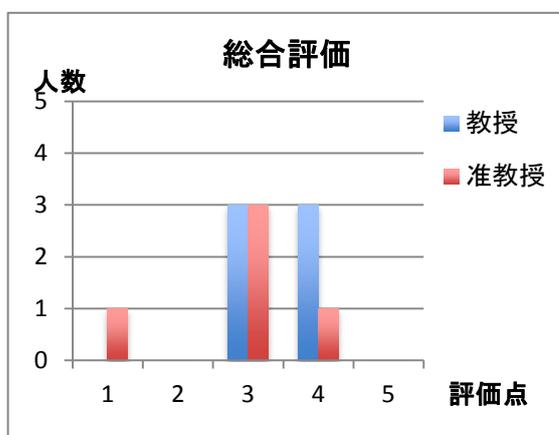
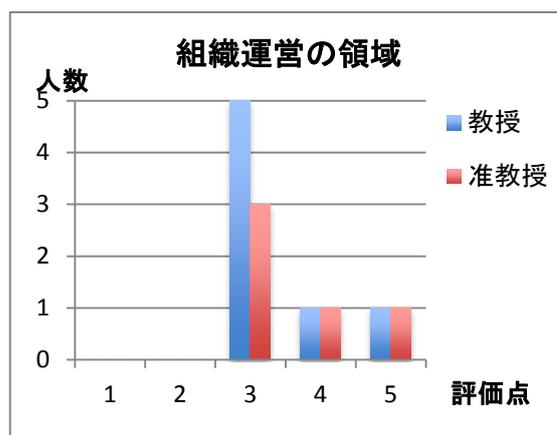
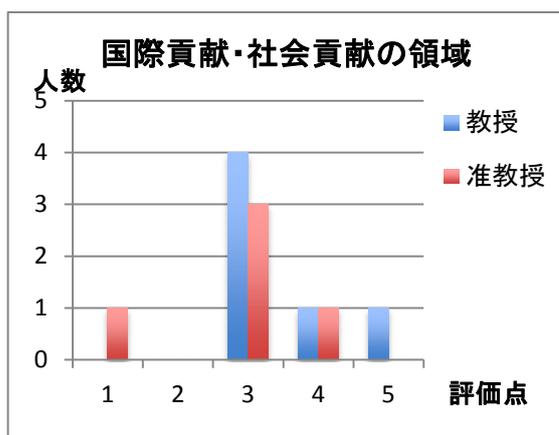
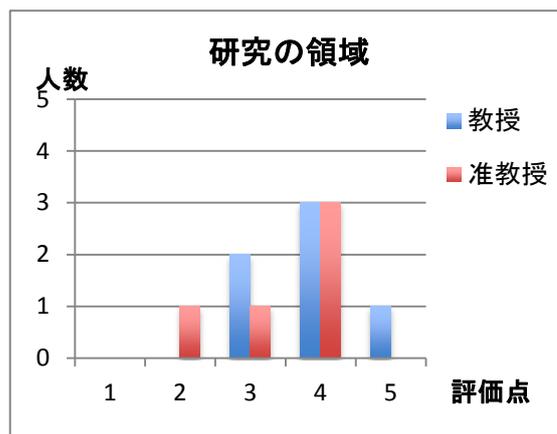
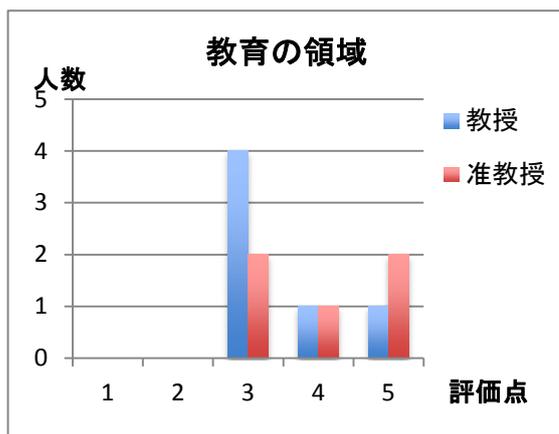
【先端融合工学専攻】

評点は2-5の範囲に渡り、この表から、各教員は概ね適切な自己評価を行っていると思われる。

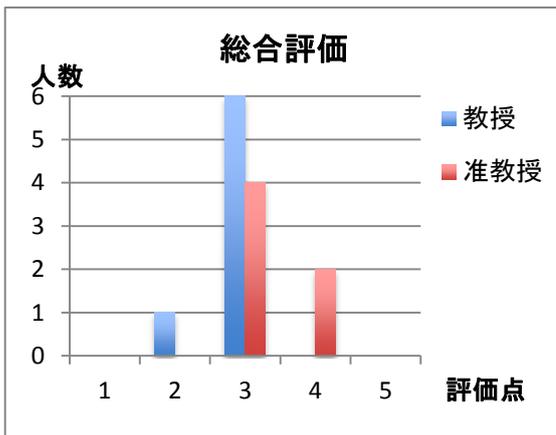
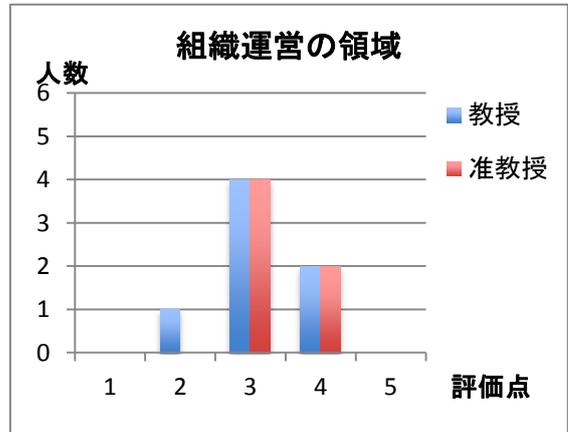
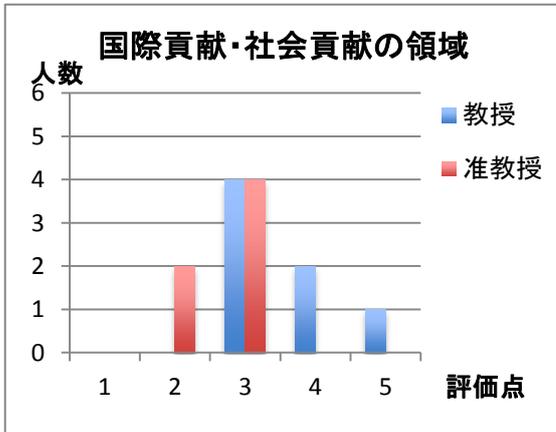
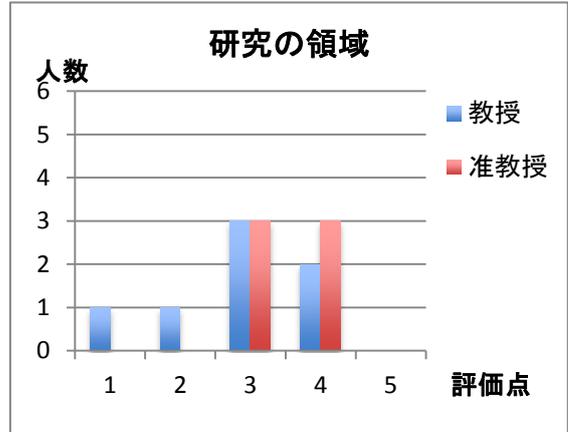
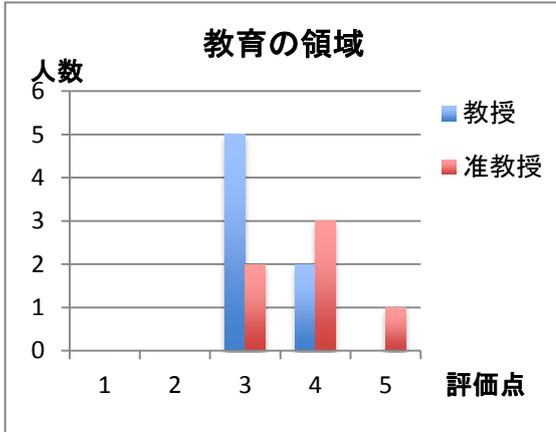
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム

以下のとおり専攻毎に各教員が自己点検した評価領域に関する評価点のヒストグラムを示す。「准教授」は准教授と講師の合計を表す。

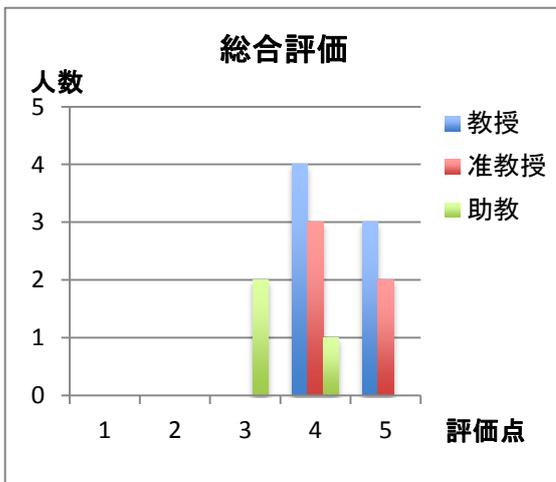
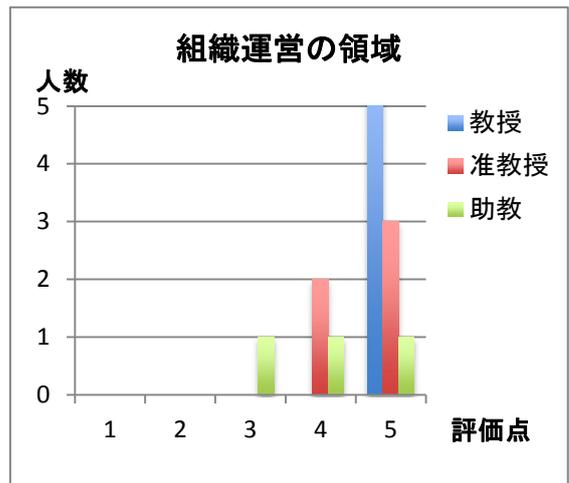
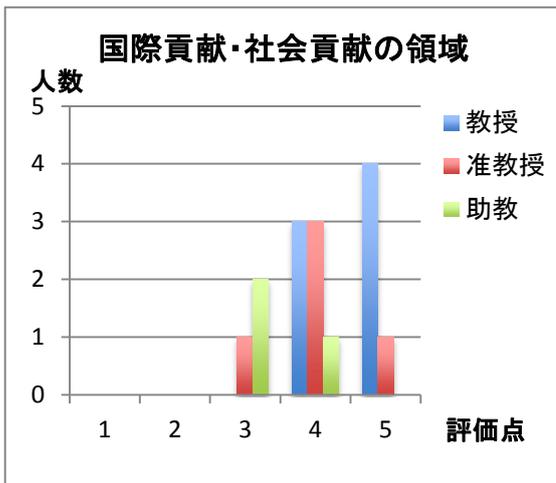
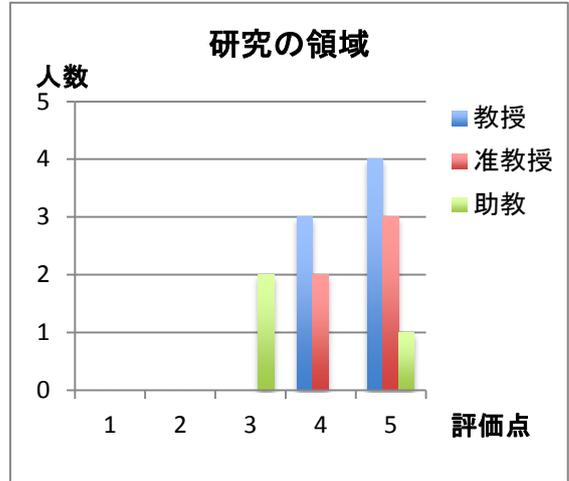
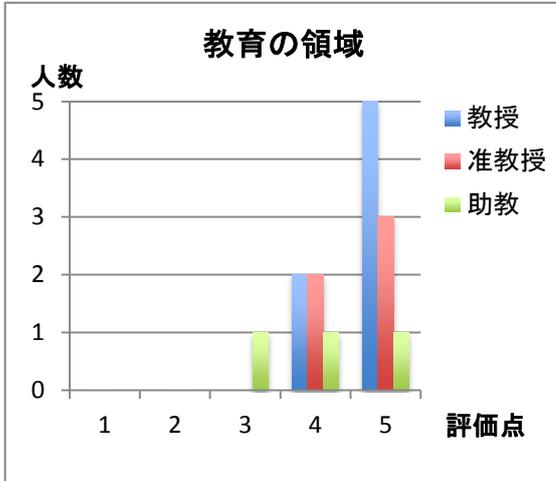
【数理科学専攻】



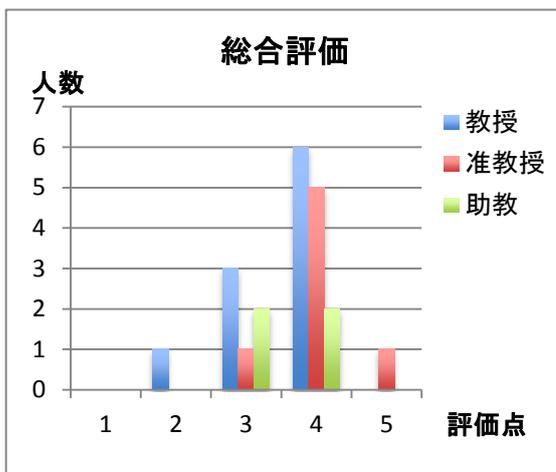
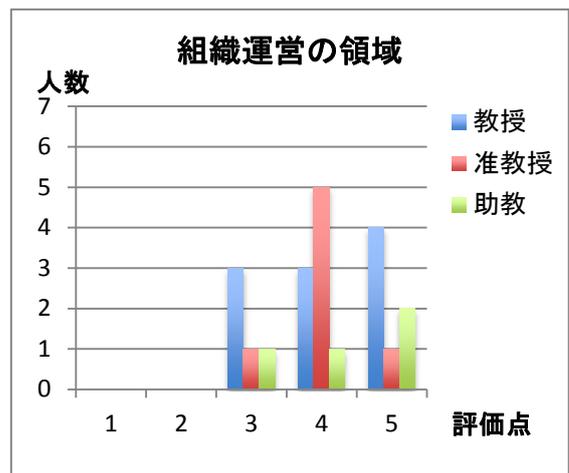
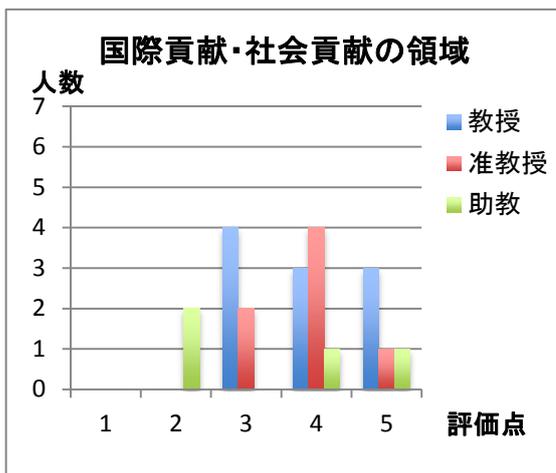
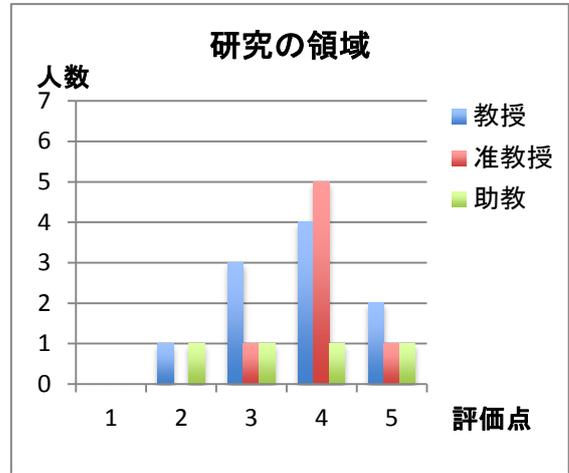
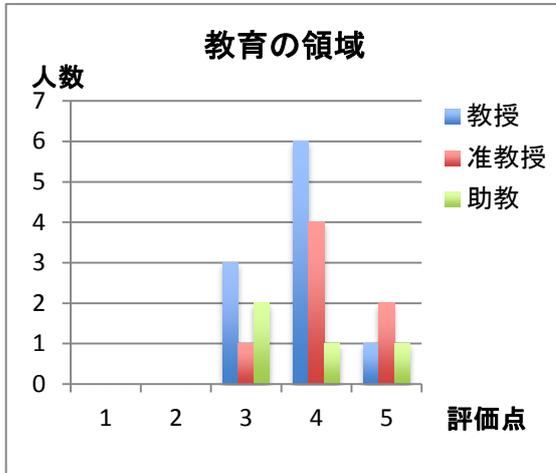
【物理科学専攻】



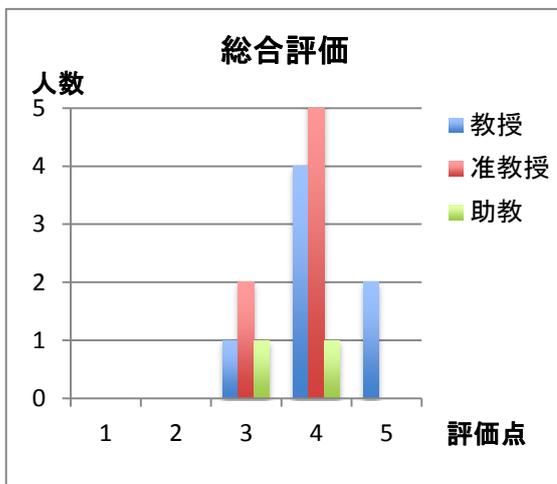
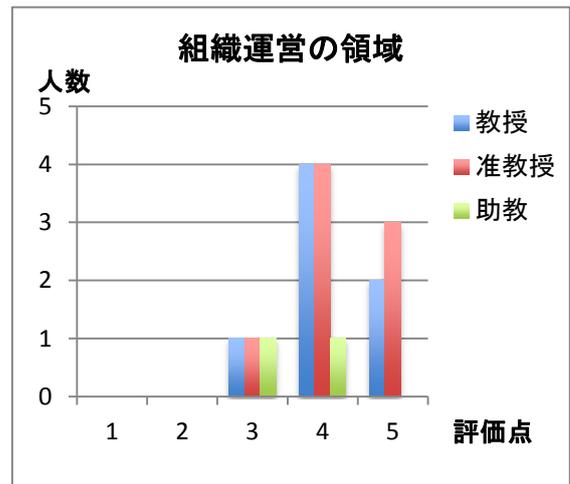
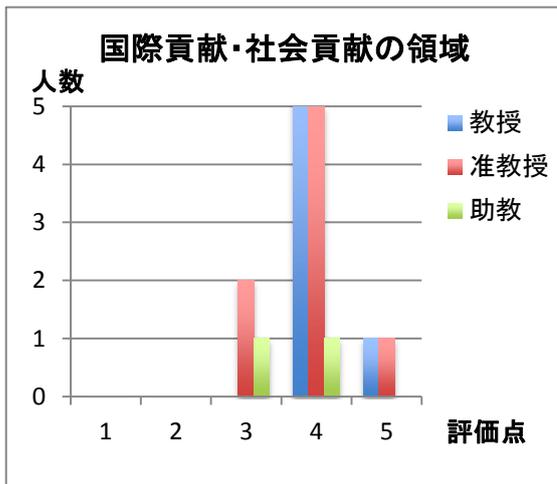
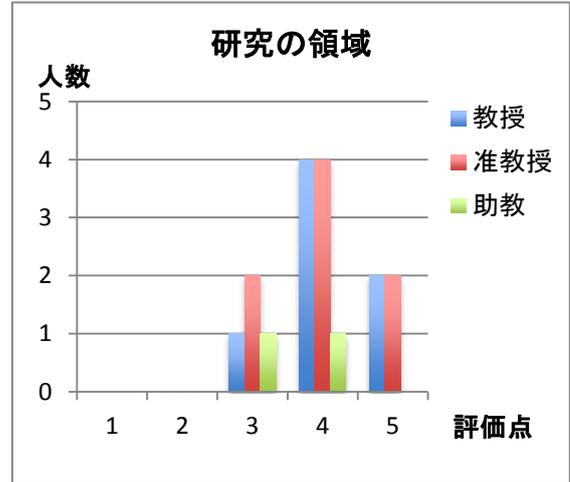
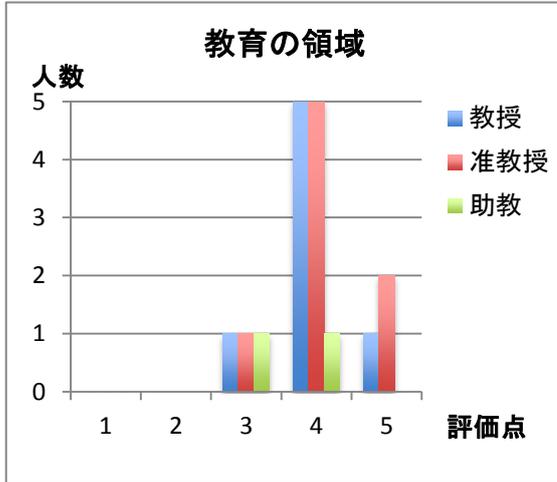
【知能情報システム学専攻】



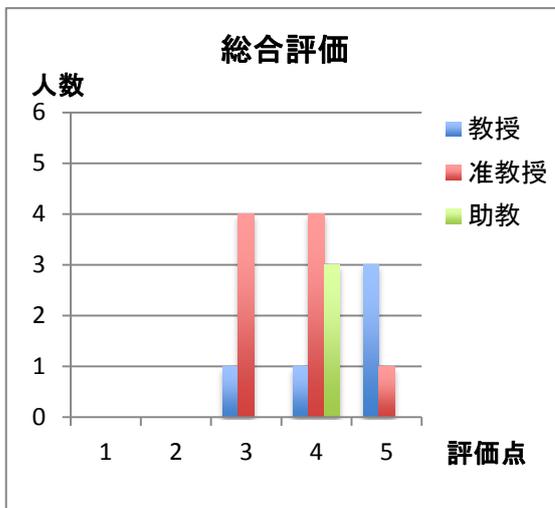
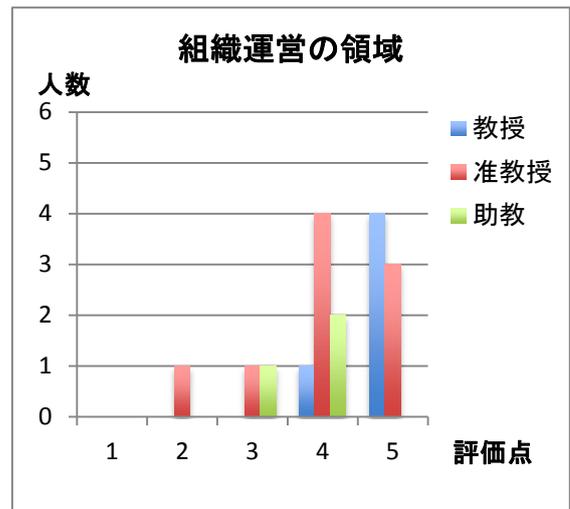
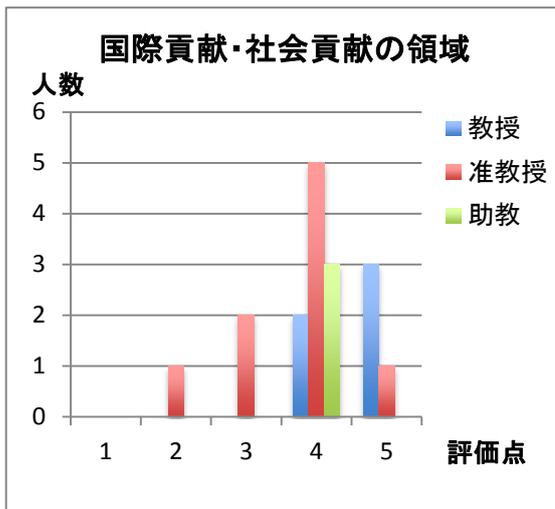
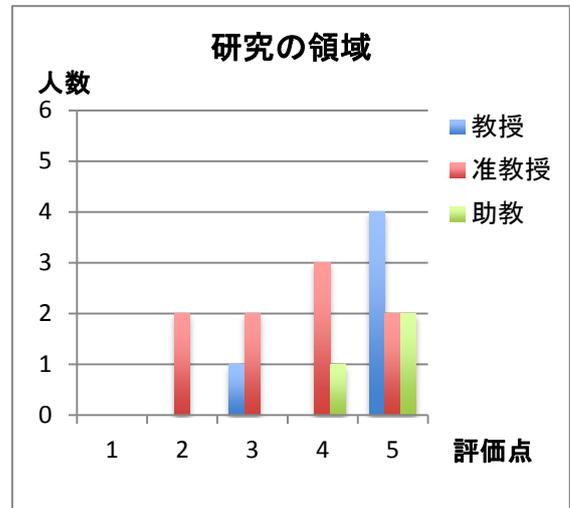
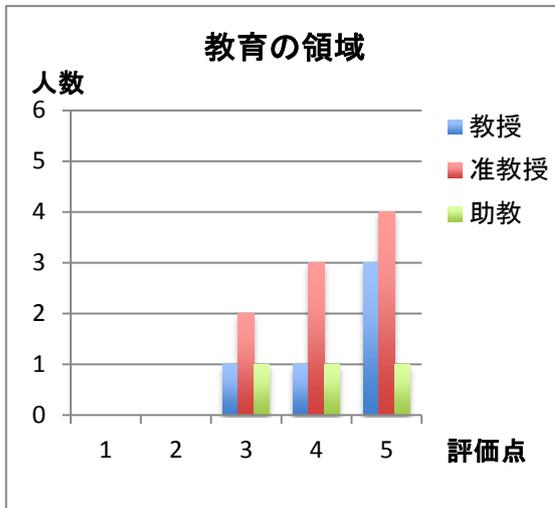
【循環物質化学専攻】



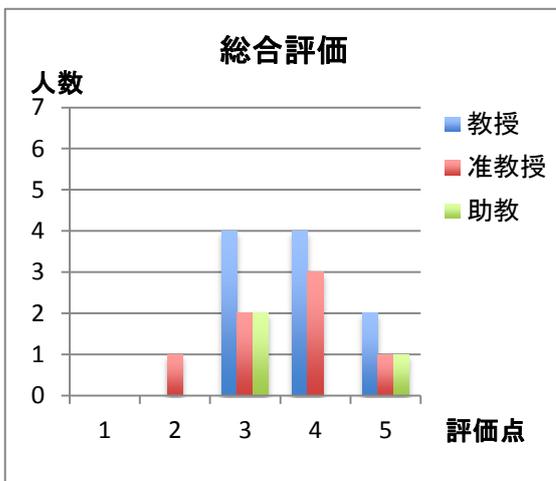
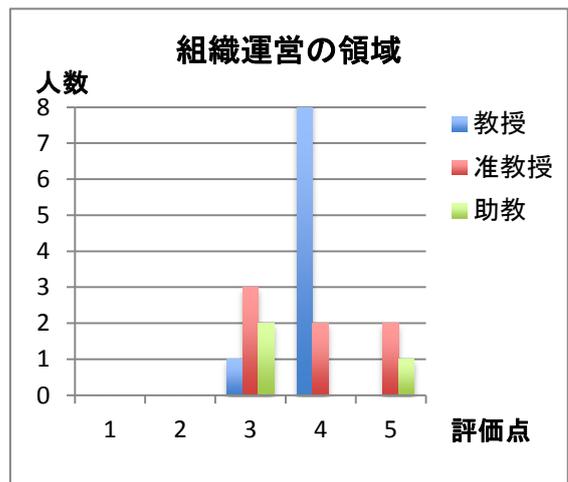
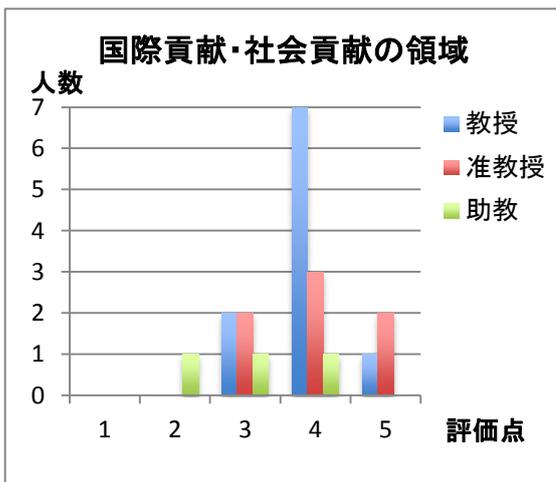
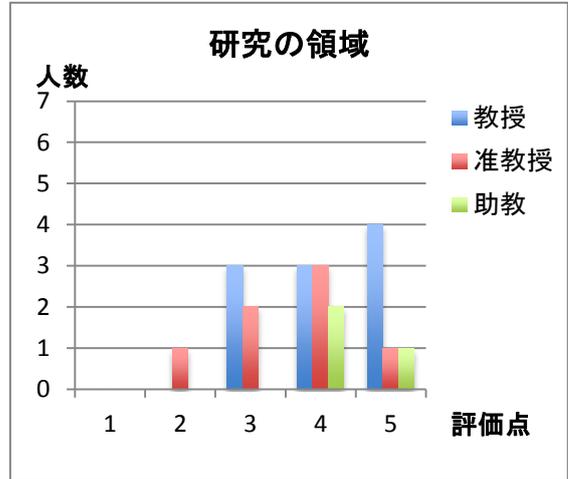
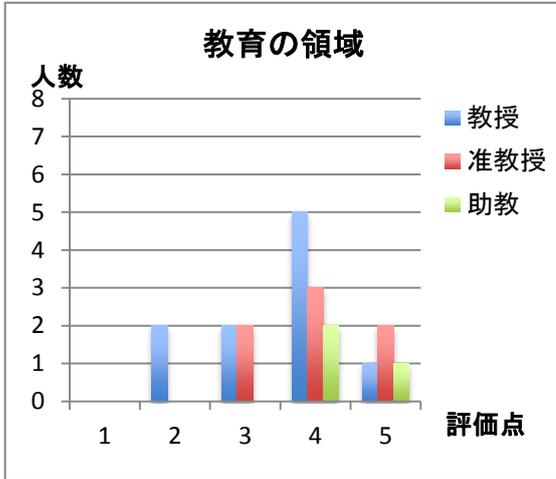
【機械システム工学専攻】



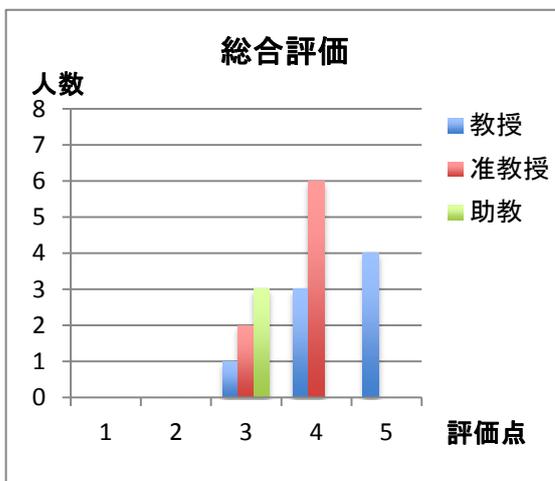
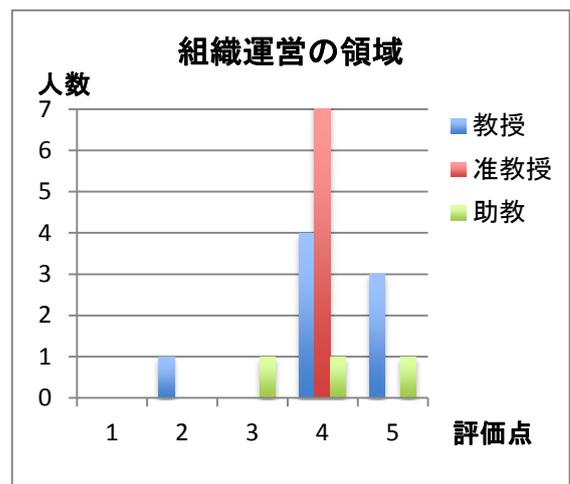
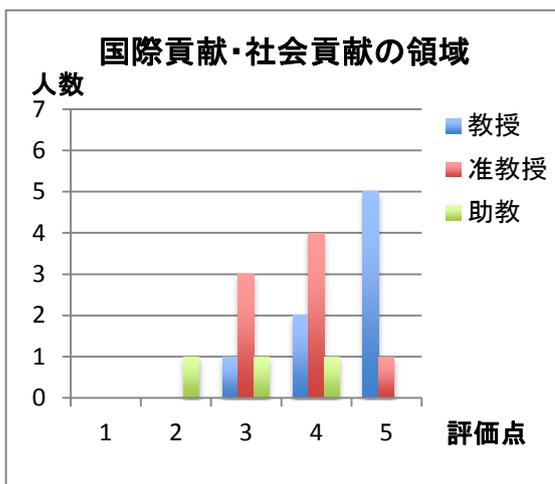
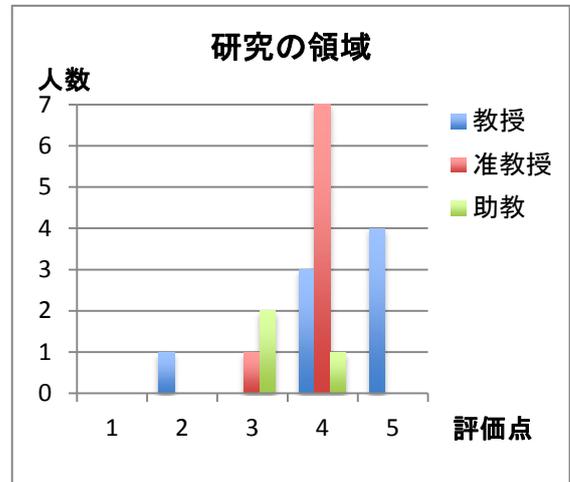
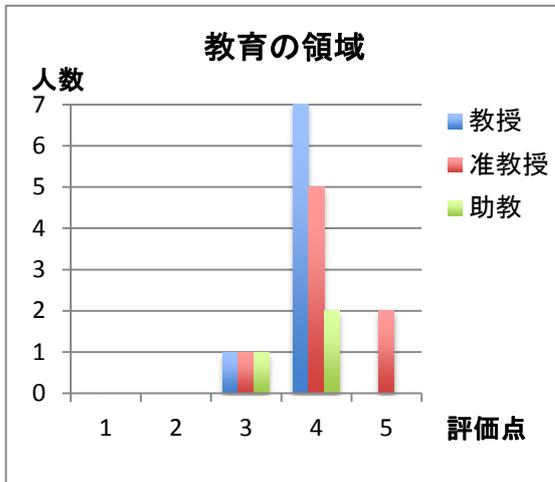
【電気電子工学専攻】



【都市工学専攻】



【先端融合工学専攻】



4.3. 評価委員からのコメント

各専攻の評価委員からのコメントを以下にまとめる。

【数理学専攻】

1. 各教員が真摯に研究及び教育活動を行い、高い科研費採択率や入試問題作成などで、本学・本研究科に貢献している。
2. 自己評価は概ね妥当であり、過去の年度と比較すると、国際研究集会の開催や中期計画推進経費の採択など、研究面での向上が見られる。

【物理学専攻】

1. 教育改善に関する事項については、引き続き様々な取り組みがおこなわれている。わかりやすい講義をするために、学期初めに学生の理解度を調査したり、頻繁に小テストを実施するなどして、学生の理解度を定常的に把握する努力がなされている。また、実施している教員はまだ限られるが、LMS はその有効性を認識しながら、有効な運用方法を追求しており一定の成果も報告されている。少人数教育では、一方的に教えられる形態から、自分で考える形態を授業に導入する努力がなされている。
2. 研究については、昨年同様に著名な国際学術誌に論文発表をしており、良好な実績を残している。
3. 社会貢献に関しては、例年と同様、幅広く活動をおこなっている。
4. むしろ、この報告書に象徴されるような、費用対効果比が不明な活動に割かれる時間が年々増大し、見せかけ上という表面上の“報告実績”に多くの時間を消耗されて本来の教育・研究の活動を圧迫している点が危惧される。

【知能情報システム学専攻】

1. JABEE の認定を受けて以来 10 年が経つが、JABEE の活動を通して教育改善の PDCA サイクルが良好に機能し、教育効果を上げている。
2. 研究業績数が昨年度よりも大幅に増えており、評価に値する。特に、准教授、講師においては特定の教員ではなく、ほとんどの教員の業績が伸びたことが理由であり、特筆に値する。
3. 助教の研究成果（論文発表数）が伸び悩んでいる問題は依然として解決していない。今後、専攻内の研究協力を通して活性化を図ることも一案と考える。
4. 教員の退職が今年度末、来年度末と続く。長期的な人事計画、およびそれに伴うカリキュラムの見直し、科目割り当ての変更等が喫緊の課題である。

【循環物質化学専攻】

1. 循環物質化学専攻では、教員個人が教育、研究、国際貢献・地域貢献、組織運営の

各領域においてバランス良く優れた成果を上げており、専攻として優れた貢献をしていると評価できる。

2. 学部教育においてはJABEE認定プログラムを継続し、質の高い教育を行っている。JABEE認定プログラムの継続審査では全てA判定を受けており、6年の認定を受けた。また、各教員の授業改善に対する意欲も旺盛である。大学院教育においては、博士前期課程のみならず、博士後期課程においても多くの学生を指導しており、着実な教育・研究成果を上げている。博士課程の学生に対する研究を通じた教育の成果は学会での受賞や学生自身の執筆による論文発表などに反映されている。
3. 研究においては、多くの教員が主に査読付きの英文誌に論文発表をしており、発表論文の中にはIF値が極めて高い雑誌への発表も含まれており、研究の質の高さが伺える。また、多くの教員が学科、研究科、学部間で連携し、共同研究を行い、学長経費や研究科長経費、連携大学院共同研究費を獲得している。これらのシーズ研究の内部資金としての支援によって、次年度以降の外部資金獲得に向けて活動中である。さらに、市・県・官庁、他大学、民間企業と共同研究や受託研究を行い、外部資金を獲得して成果を上げており、専攻として優れた研究分野での貢献をしていると評価できる。
4. 国際貢献については、多くの研究者が国際学会への参加・発表を行う中で海外の研究者との研究交流を活発に行っている。また、国際学会の運営委員を務めたり、海外の大学との共同研究も開始されている。研究科の支援による国際パートナーシッププログラムや国際化推進事業（外国人研究者招へい事業）にも積極的に専攻として貢献している。地域貢献については、地域の研究アドバイザーとして講師を務める教員や佐賀県や九州地区の理科教育に尽力する教員がいる。また、社会貢献として、今年度は全国規模の日本化学会西日本大会を主催するとともに、学会の主要な委員を務める教員が数多くおり、学会活動の普及に努めている。このように、国際・地域・社会貢献にバランス良く活躍しており、優れた貢献をしていると評価できる。
5. 組織運営については、全学、研究科、専攻において本専攻教員は幅広く組織運営の責務を果たして活躍しており、また過剰と思われるほど多くの教員が重責を担う役職任務を遂行しており、貢献度は極めて高いと評価できる。また、当専攻はその学問的基盤によりエコアクション等の安全管理にも学内で先導的活動を行っている。

【機械システム工学専攻】

1. 機械システム工学科の教育プログラムは日本技術者教育認定機構のJABEE認定を受けている。この認定プログラムは継続的な点検・改善を必要とし、定期的に日本技術者認定機構による審査が行われるが、直近では平成22年10月に継続審査が完了した。この事実は当学科で質の高い教育が保証・維持されていることの証左であり、教員の日々の研鑽により導かれた結果といえる。

個々の講義に関しては、定年退職や定員削減などで教員一人当たりの担当科目数

が増える中、各教員が学科の目標に沿って学生を育成しようとする努力が垣間見られる。

2. 大学院教育に関しては、講義での専門知識の修得に加えて、丁寧な研究指導による学生の能力の向上が図られている。
3. 研究の面では、国内外の学会などでの論文発表が活発に実行されている。研究費については、科学研究費補助金だけでなく、共同研究や奨学寄付金、財団からの研究助成などの受け入れについても積極的に取り組まれている。これらの実績から、機械システム工学専攻の研究に対し民間企業等が強い期待を持っていることが分かる。
4. 社会貢献・国際交流では、学会等の役員および委員会委員として活動し、また講演会、研究会なども精力的に開催している。さらに、外国人研究者の受け入れや、国際会議においての情報交換も積極的に行なわれている。
5. 記(1)～(4)と自己評価結果を勘案して、全ての教員は各自の活動の自己評価を適切に行なっていると判断する。

【電気電子工学専攻】

1. 教育に関しては、JABEEに認定されていることにより、社会の要求水準を満たしていることが保障されている。また教育に学会発表を積極的に利用しているのが特徴であり、学生の受賞が多い結果として表れている。
2. 研究に関しては、論文総数が多く、アクティビティーが非常に高いことがわかる。論文総数が教授>准教授>助教という結果から、准教授以下の教員は自信をもって研究に取り組んでいただきたい。
3. 国際交流実績・社会貢献に関しては、国際会議への参加、学会委員の活動や地元高校での活動等の地域活動を積極的に行っているといえる。
4. 組織運営に関しては、各教員は、全学委員、工学系研究科担当委員、専攻内委員として、今後も積極的に取り組んでいただきたい。

【都市工学専攻】

1. 教育について
 - 教授の教育負担で見ると、学部でも大学院でも平成23年度に比較して担当科目数の平均が1科目以上増えている。教員人事が速やかに実施されなかった影響が現れていると思われる。
 - 学生の授業評価を踏まえ、学生に分かりやすくする様々な授業の工夫が実践されており、総体的に授業方法の改善が図られていると考えられる。
 - 平成18年度に2コース制（都市環境基盤コースと建築・都市デザインコース）を導入したが、第1期の学科入学生が平成23年度に博士前期課程を修了し、学部から博士前期課程までのワンサイクルが既に経過している。平成24年度末よりコー

ス制導入の評価を踏まえた教育システムの改善に着手し学科・専攻のミッション検討を行っている。

2. 研究について

- 教員個人間で論文数のばらつきが極めて大きい。
- 研究分野の事情も背景にあると考えられるが、研究活動の落ち込みを極力少なくし、専攻全体の研究活動を一層高めるための自覚と努力が望まれる。これについても、学科・専攻ミッション検討でその改善方策を検討中である。

3. 地域・国際貢献について

- 多くの教員が行政などの各種委員会や審査会などを介して地域社会に貢献している。
- 半数近くの教員が工学系研究科の国際教育パートナーシッププログラムや環黄海教育プログラムへの参加、外国からの教員・研究員・大学院生の受け入れ、及び国際的共同研究の実施により、国際学術交流を行っている。

【先端融合工学専攻】

1. 教育に関しては、評価点や達成率の平均値も高く、担当科目数も他大学教員よりも多い。また、多くの教員がFD講演会に参加したりする等、教育改善に対する工夫と努力が見られる。
2. 研究に関しては、各教員が多くの研究成果を出しているだけではなく、賞を獲得し対外的に評価されている事が確認される。一方、外部資金の獲得は一部の教員に偏っている傾向がある。各教員の評価点や達成率の平均値も高く、十分な成果を挙げていると思われる。
3. 社会貢献・国際交流に関しては、日本を代表する学会の理事をはじめとして、多くの学会や地域の協議会・審議会の役員等をこなしている。評価点や達成率の平均値も高めの値であり、社会貢献や国際交流に対する理解と努力が感じられる。
4. 組織運営に関しても、全教員の積極的な関与が見られ、各教員の評価点や達成率の平均値も高い値になっている。
5. 個人評価は、各自達成目標を異にするため成果の評点を単純に比較することには無理があるが、教員はおおむね各自の活動の自己評価を適切に行っていると判断する。

平成 25 年度工学系研究科評価委員会委員名簿

委員長	石橋孝治	(研究科長)
委員	萩原世也	(副研究科長・評議員)
委員	花本猛士	(副研究科長)
委員	服部信祐	(副研究科長)
委員	船久保公一	(研究科長補佐・佐賀大学評価委員会委員)
委員	木上洋一	(大学教育委員会企画・評価専門委員会委員)
委員	鯉川雅之	(教務委員会委員長)
委員	市川尚志	(数理科学専攻長)
委員	鄭旭光	(物理科学専攻長)
委員	山下義行	(知能情報システム学専攻長)
委員	滝澤登	(循環物質化学専攻長)
委員	張波	(機械システム工学専攻長)
委員	嘉数誠	(電気電子工学専攻長)
委員	大串浩一郎	(都市工学専攻長)
委員	寺本顕武	(先端融合工学専攻長)
委員	江口邦子	(工学系研究科事務長)